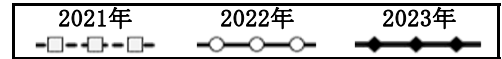


動-I 小売価格の動き—東京都区部—

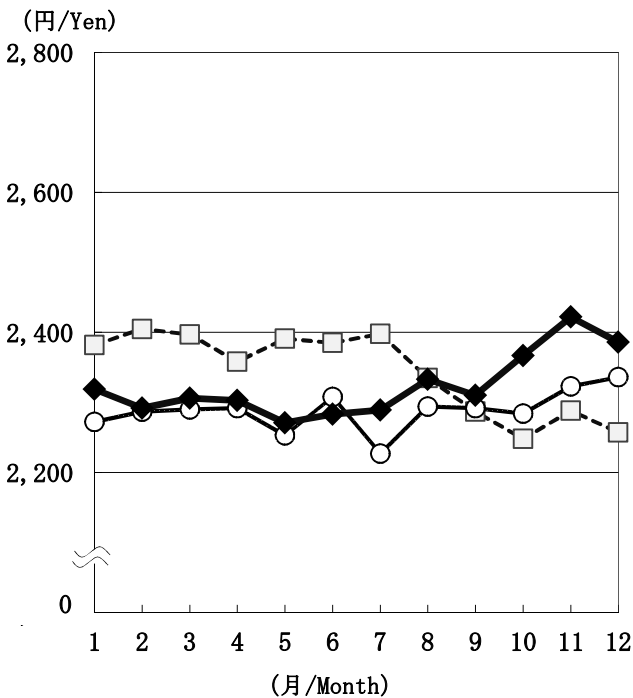
T-I Changes in Retail Prices —Ku-area of Tokyo—

食料、光熱・水道等の56品目について、東京都区部における月別小売価格の動きを2021年、2022年及び2023年の3年間で比較する。

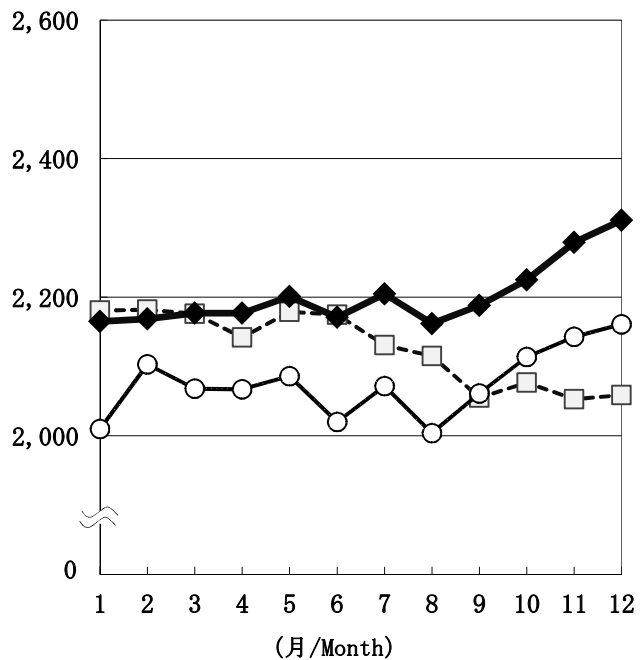
The following graphs compare trends in monthly retail prices in 2021, 2022 and 2023 for 56 items, including “Food”, “Fuel, light and water charges” in Ku-area of Tokyo.



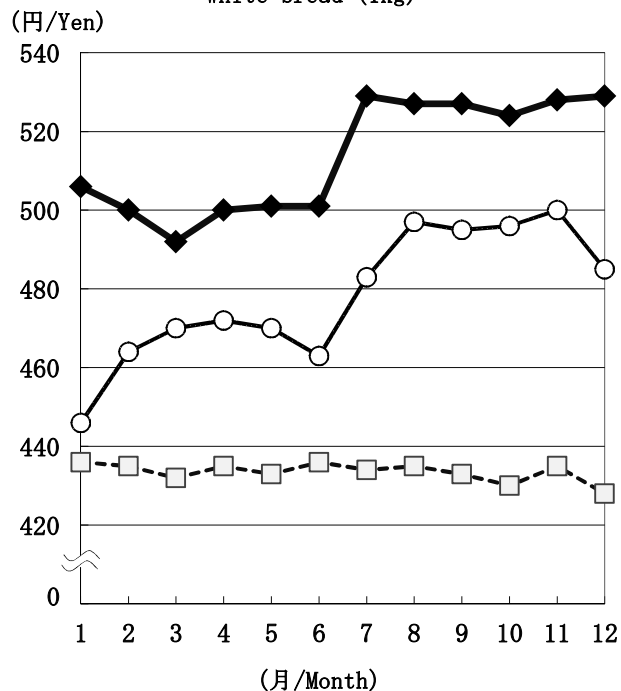
1001 うるち米(単一原料米,「コシヒカリ」)
Non-glutinous rice (“Koshihikari”) (1袋[5kg]・bag)



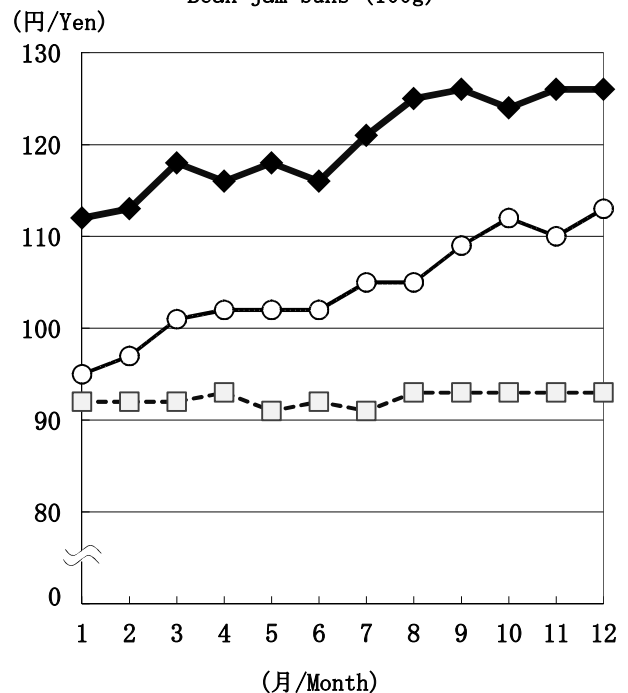
1002 うるち米(単一原料米,「コシヒカリ」以外)
Non-glutinous rice (excluding “Koshihikari”) (1袋[5kg]・bag)
(円/Yen)

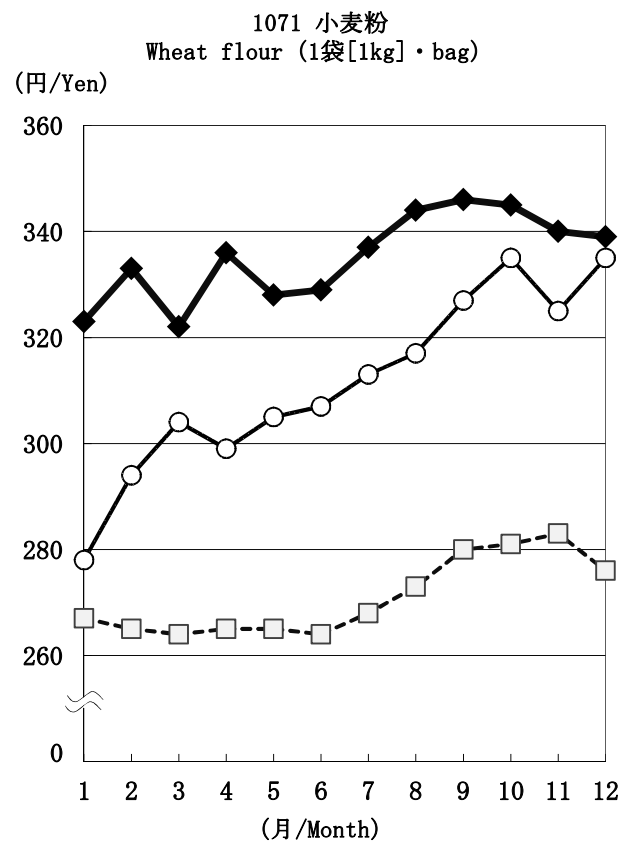
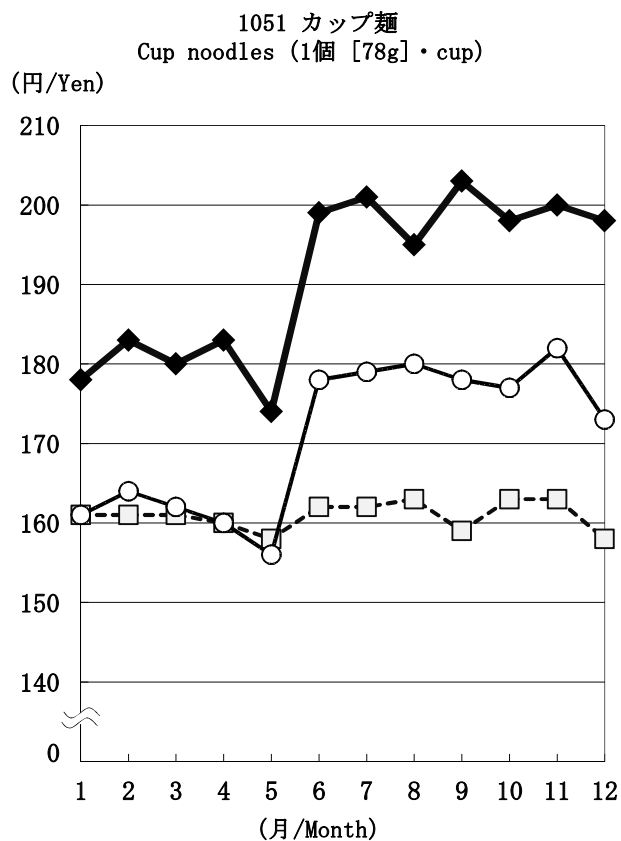
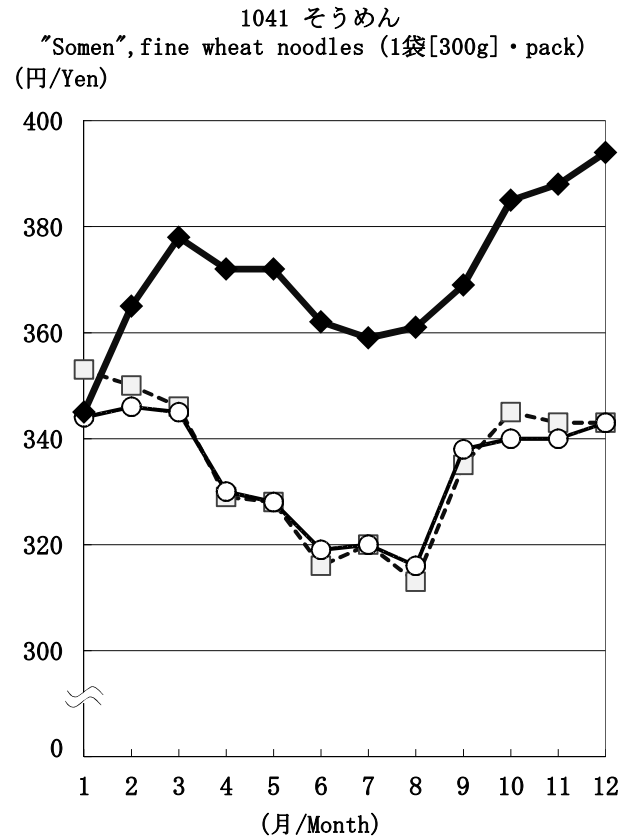
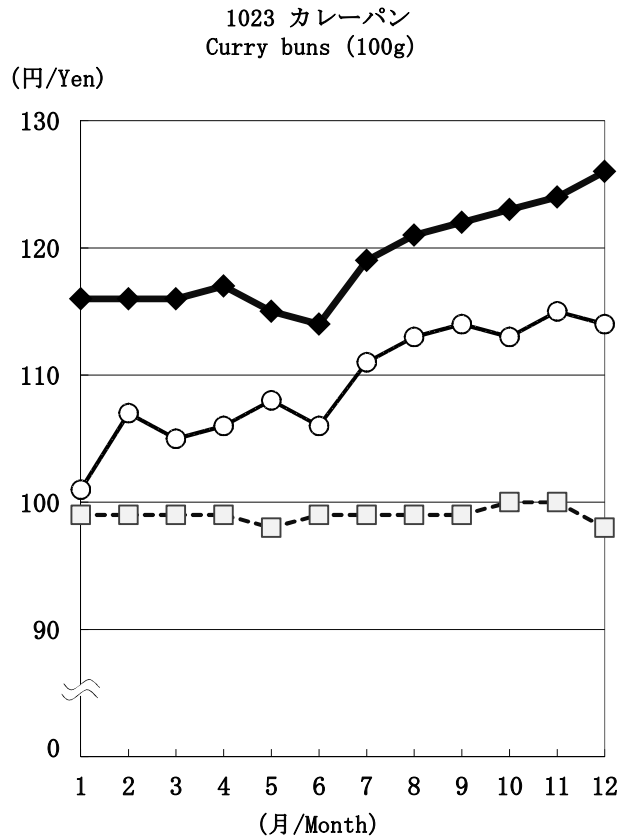


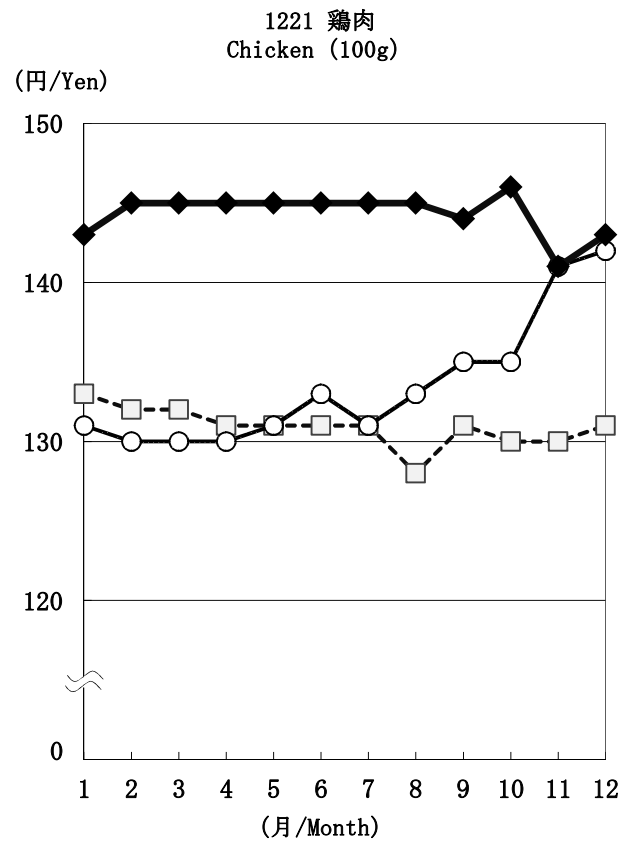
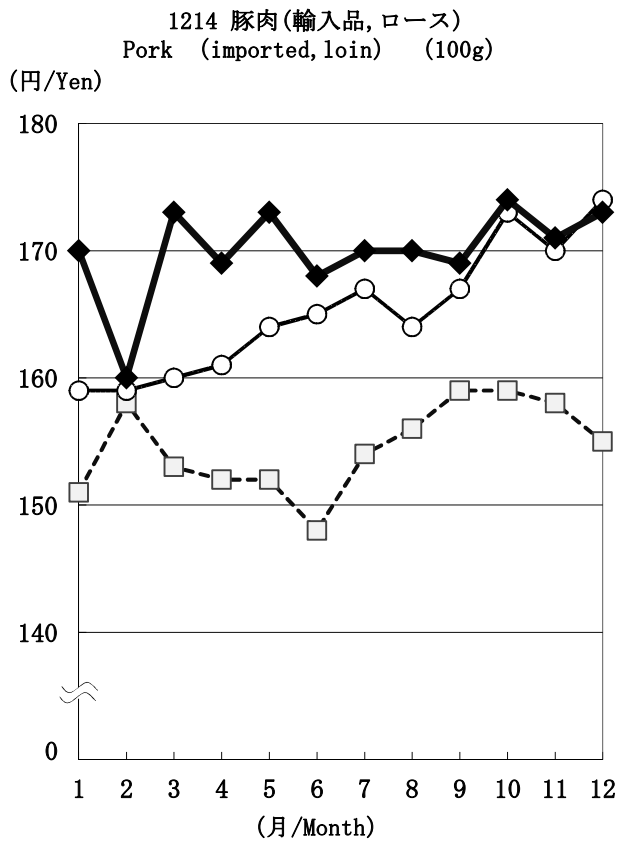
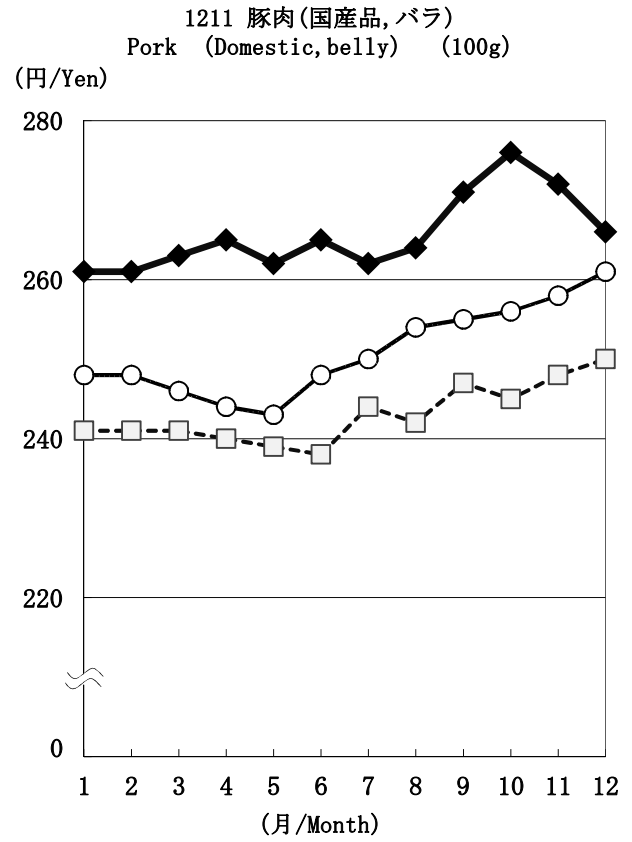
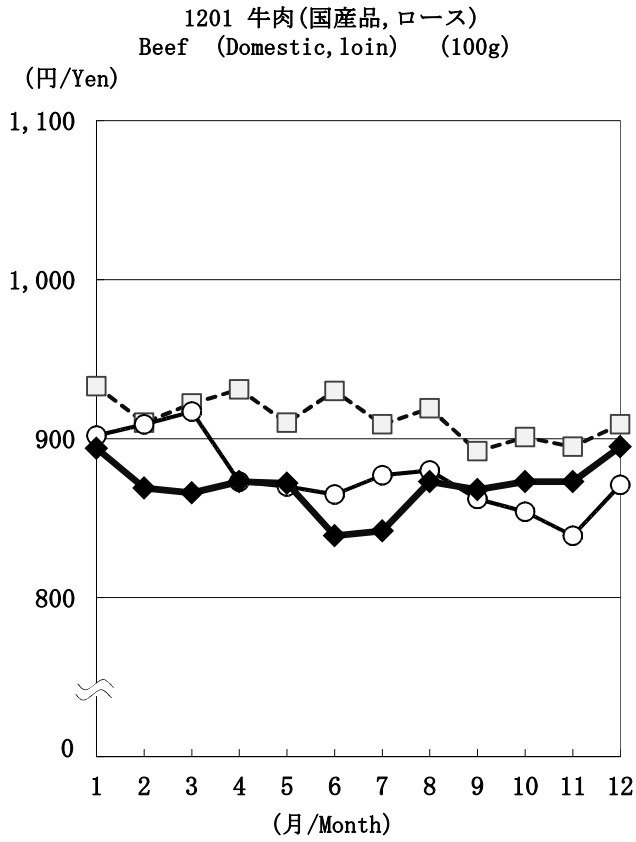
1021 食パン
White bread (1kg)

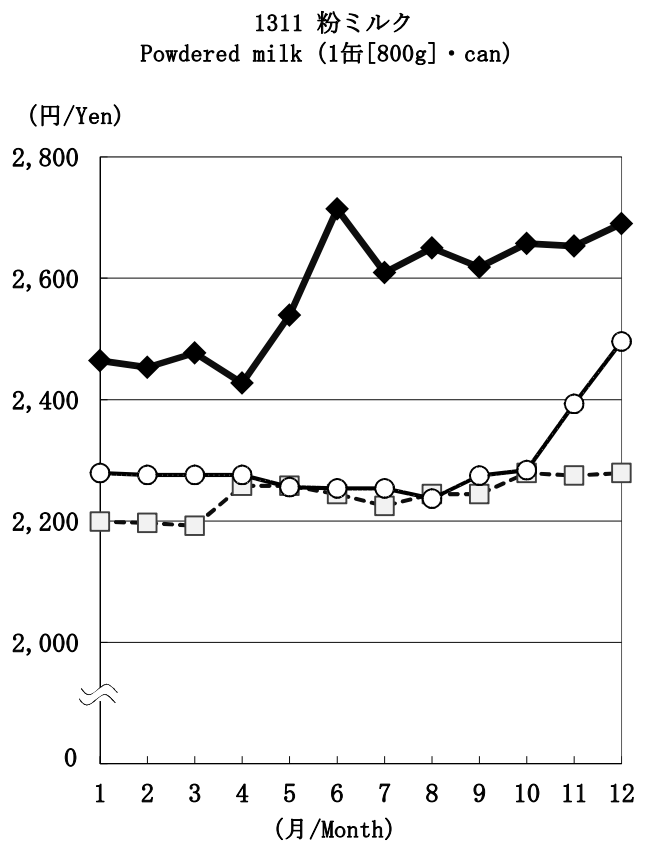
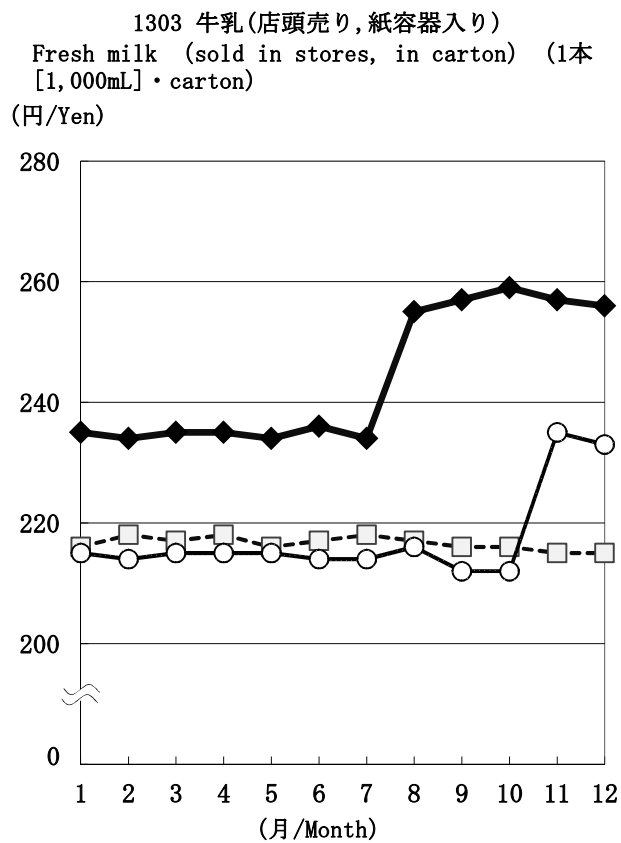
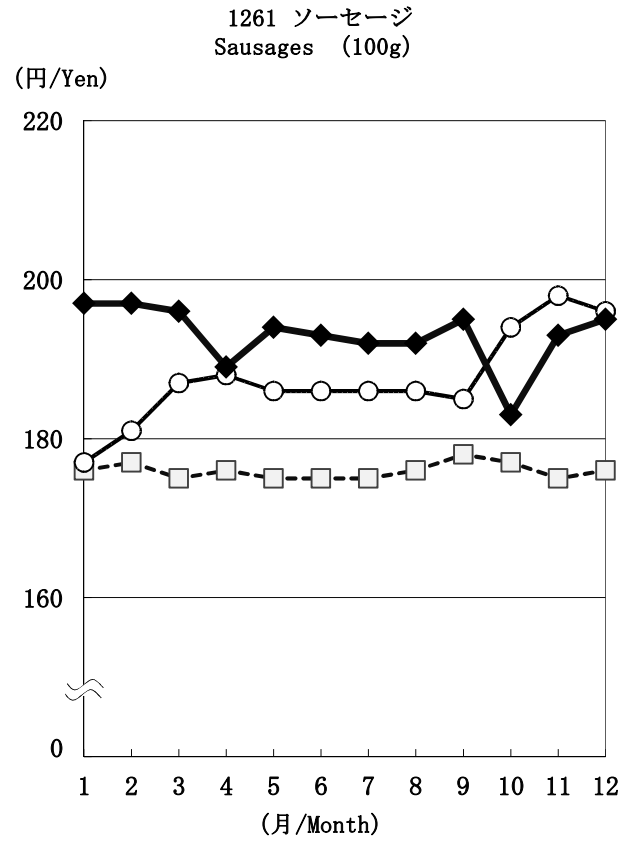
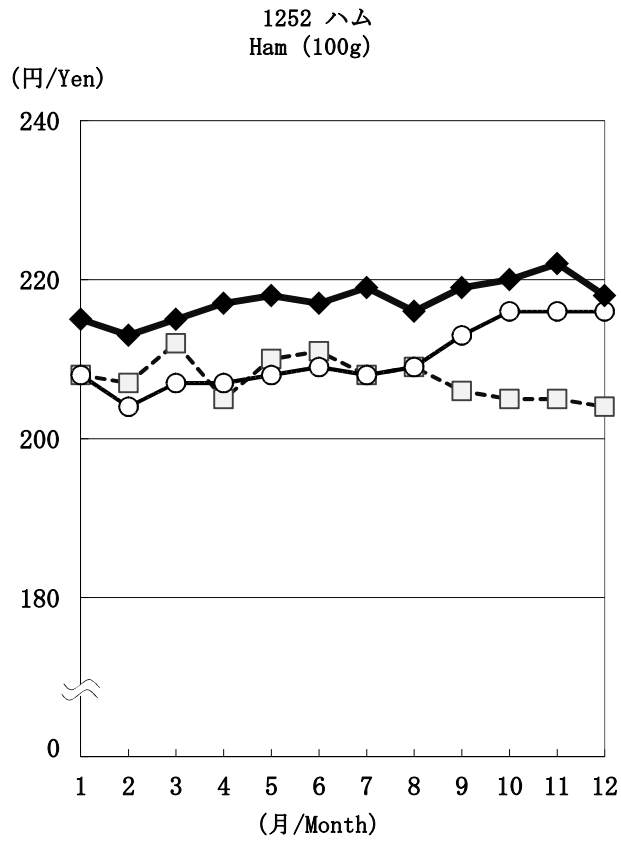


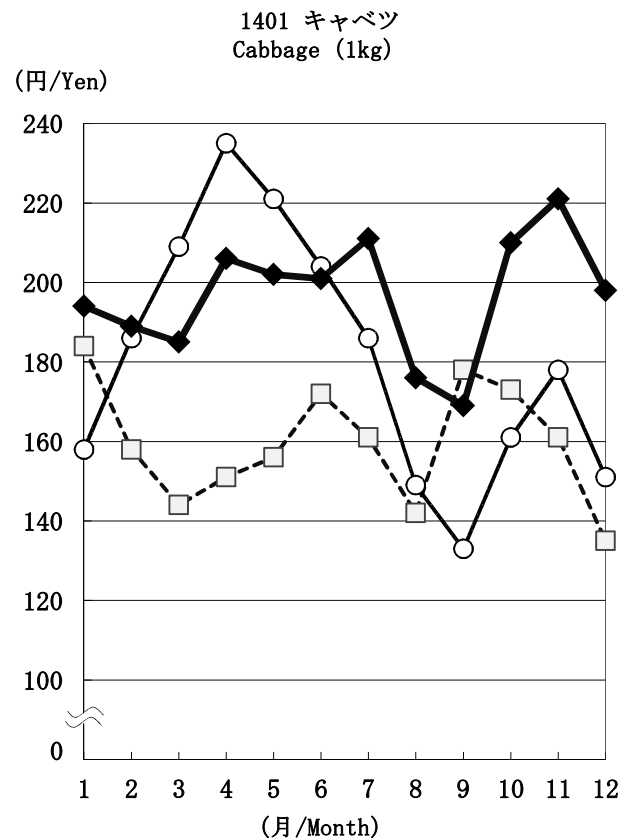
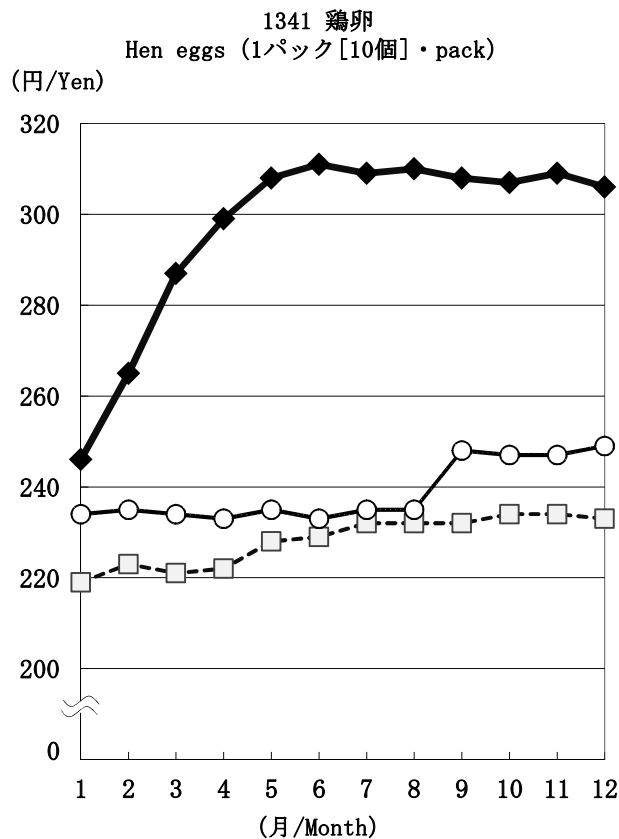
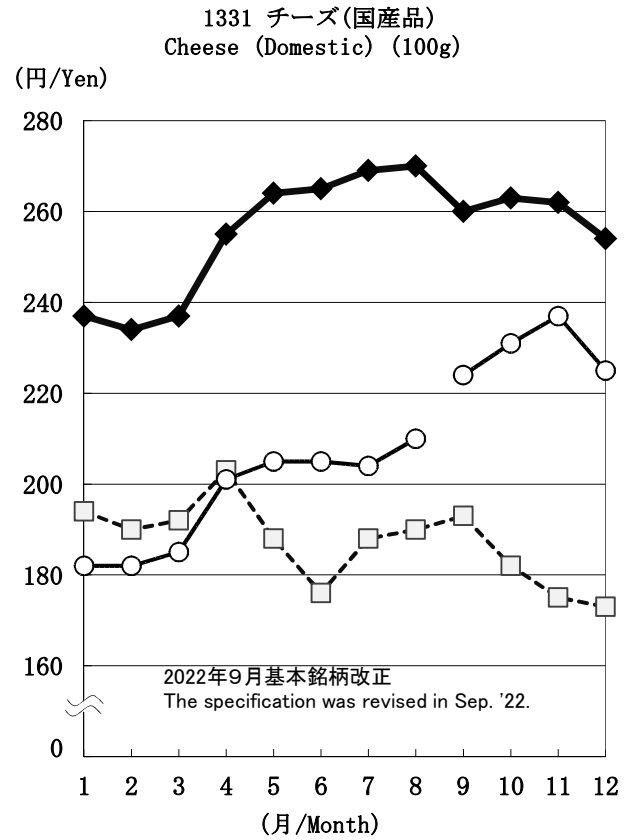
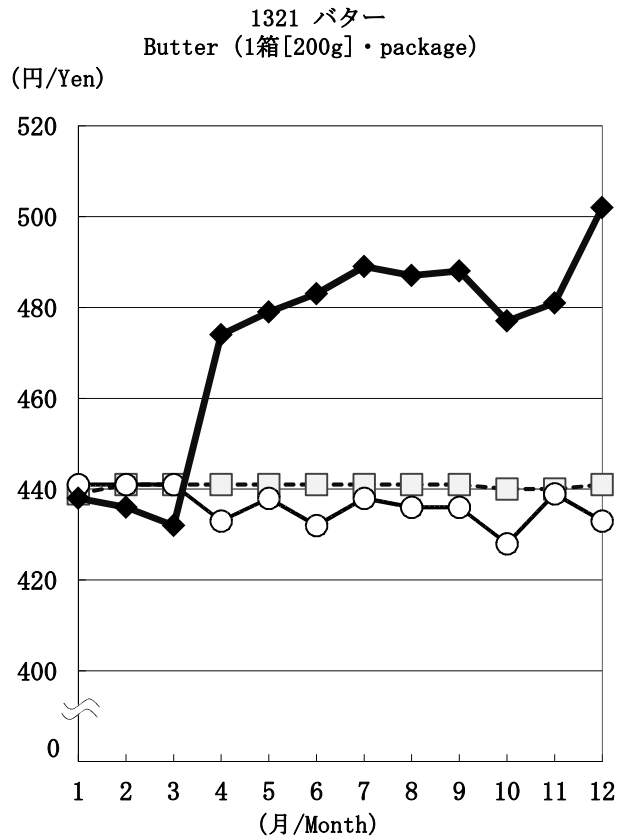
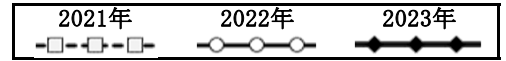
1022 あんパン
Bean-jam buns (100g)

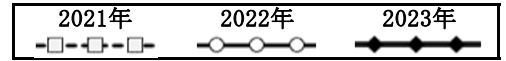




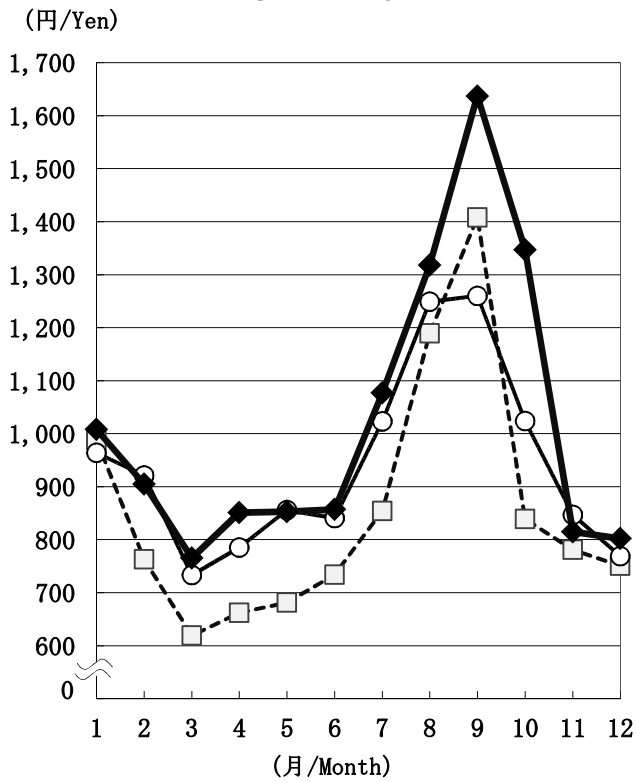




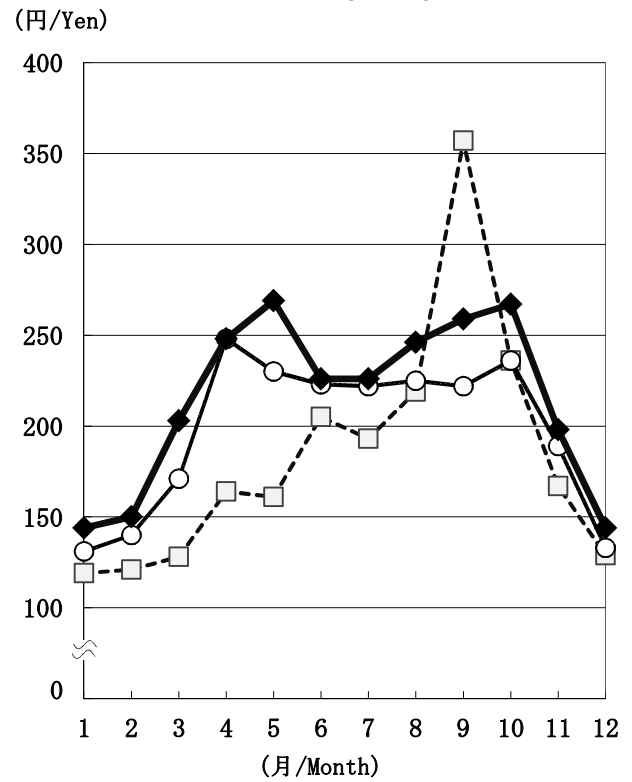




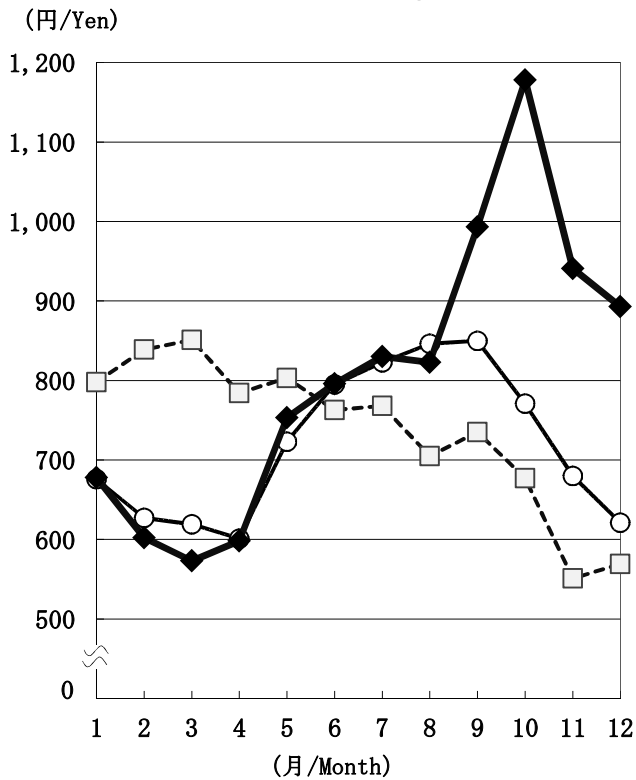
1402 ほうれんそう
Spinach (1kg)



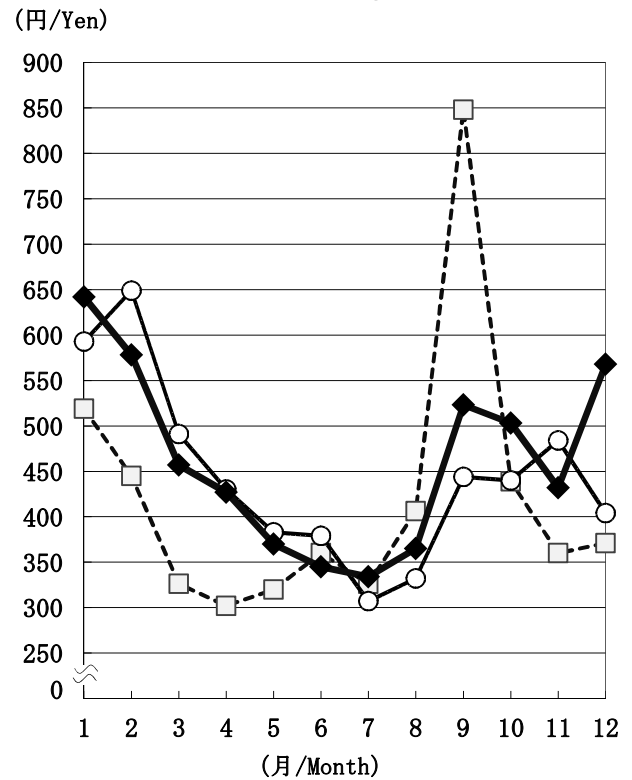
1403 はくさい
Chinese cabbage (1kg)

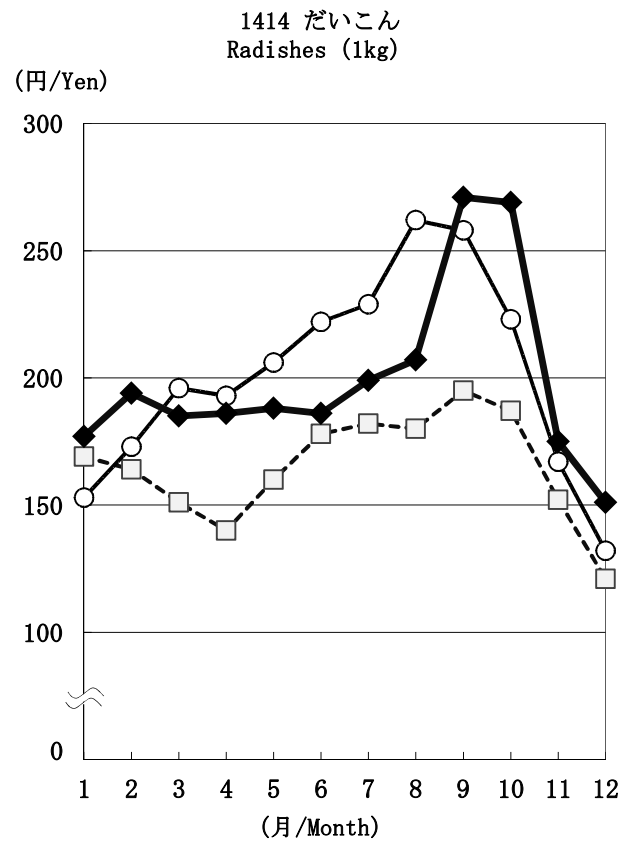
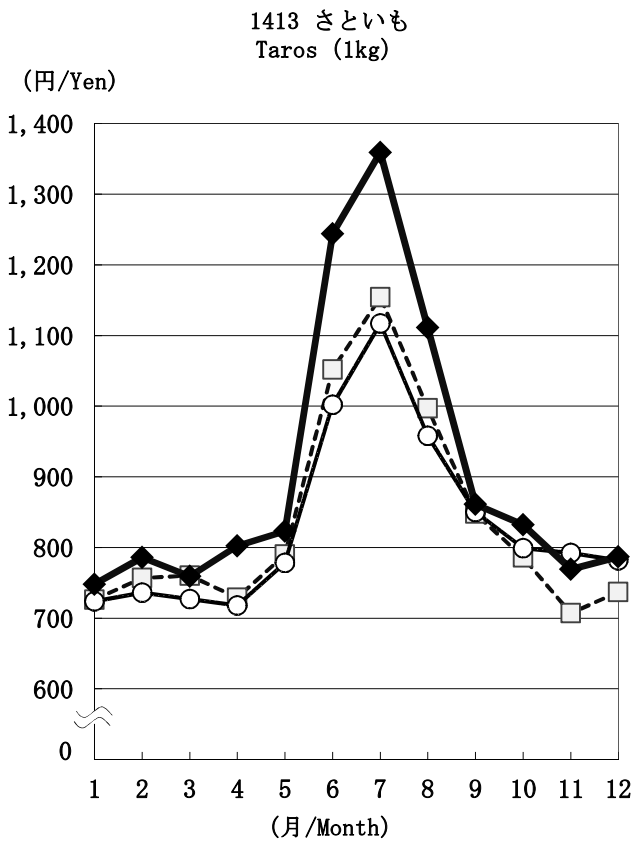
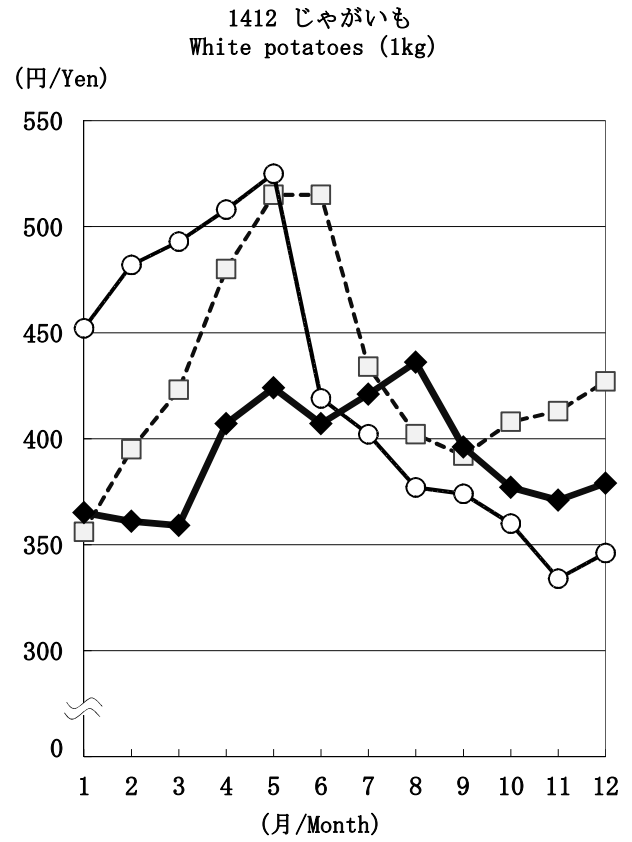
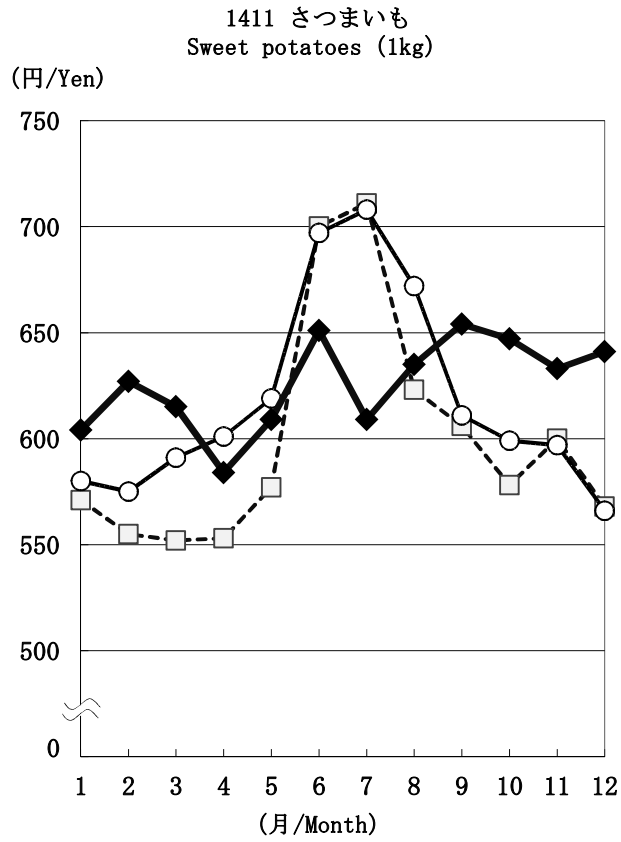


1405 ねぎ
Welsh onions (1kg)



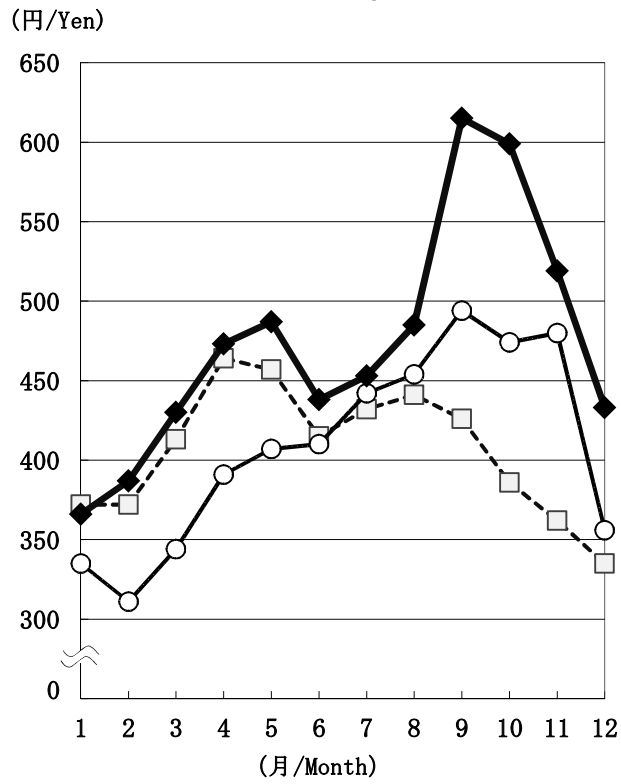
1406 レタス
Lettuce (1kg)



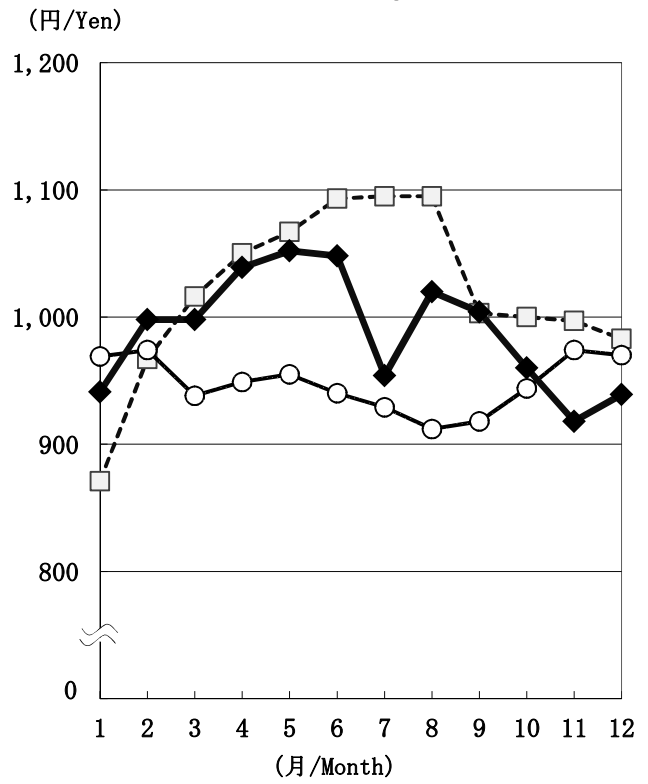




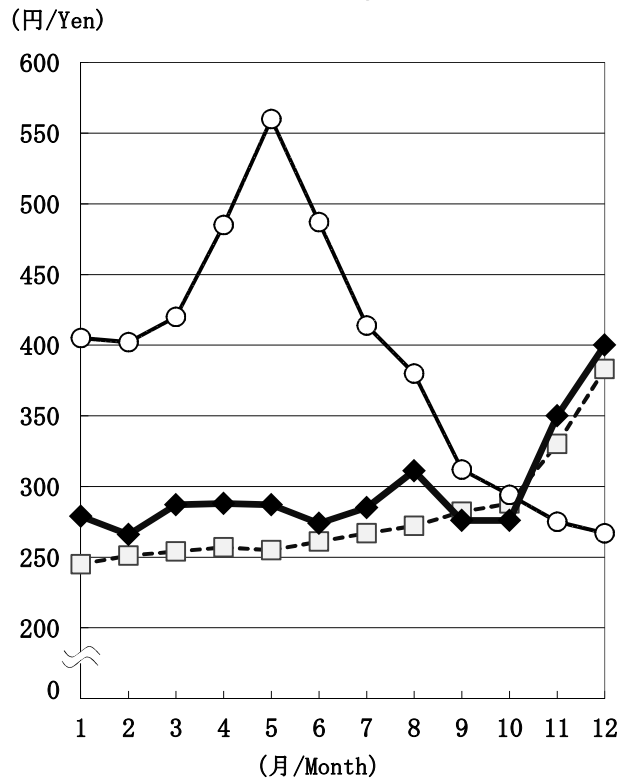
1415 にんじん
Carrots (1kg)



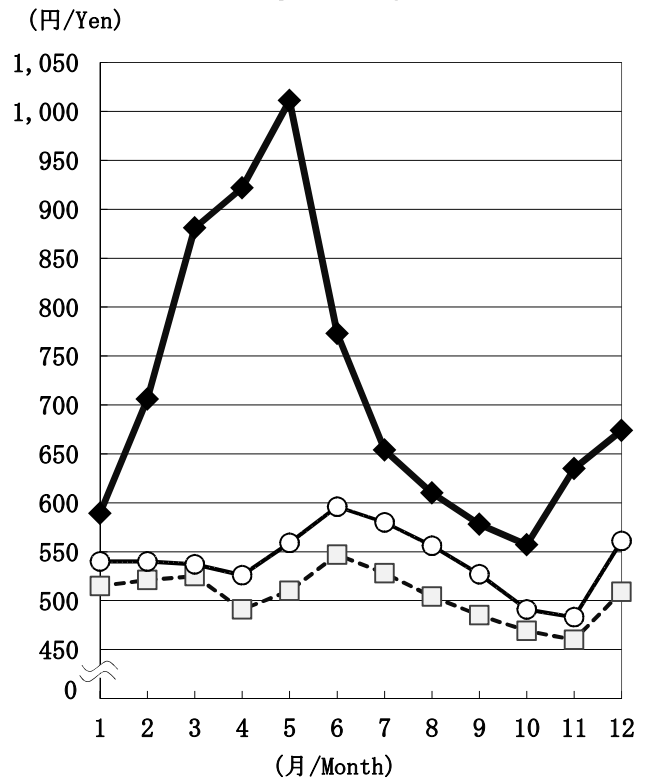
1416 ごぼう
Burdocks (1kg)

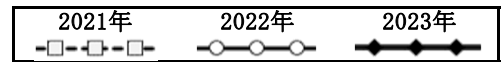


1417 たまねぎ
Onions (1kg)

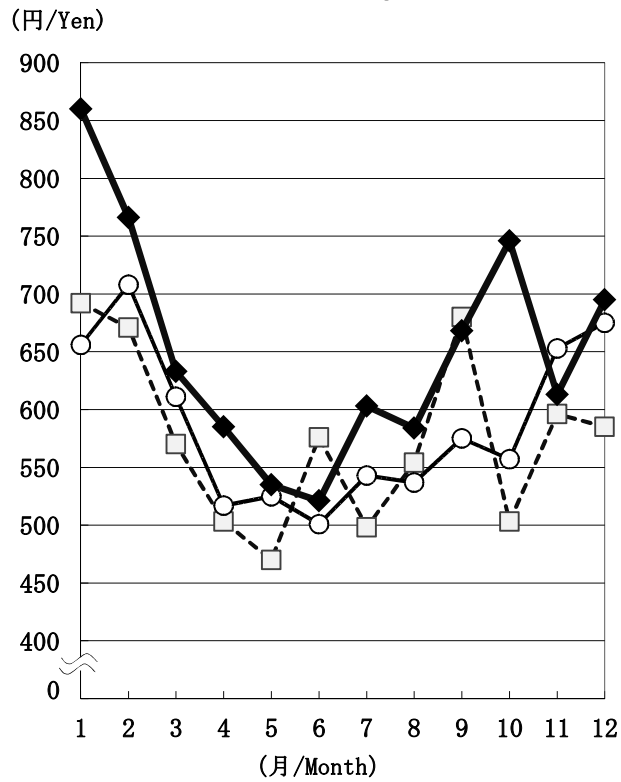


1433 かぼちゃ
Pumpkins (1kg)

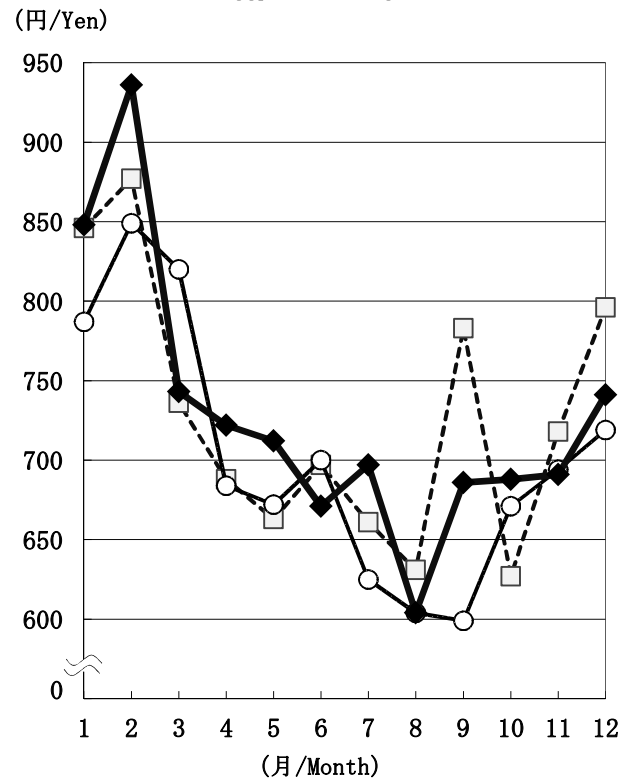




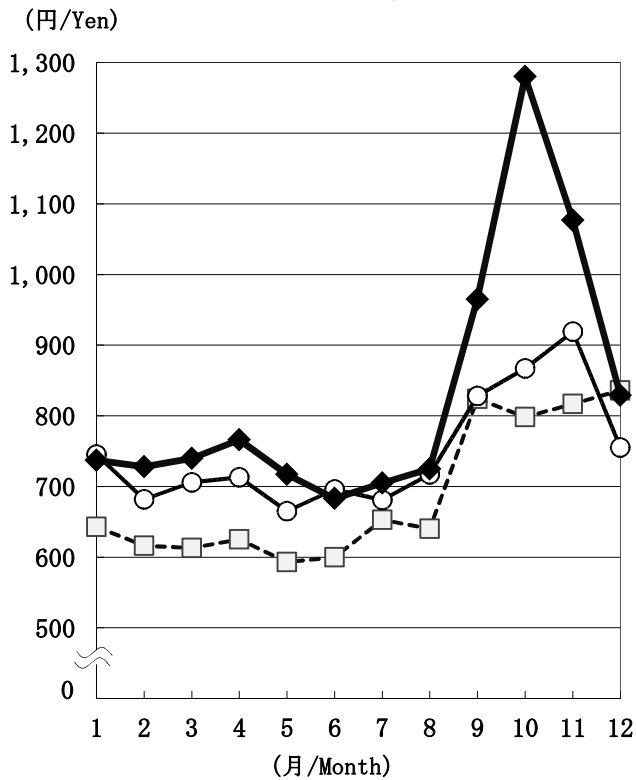
1434 きゅうり
Cucumbers (1kg)



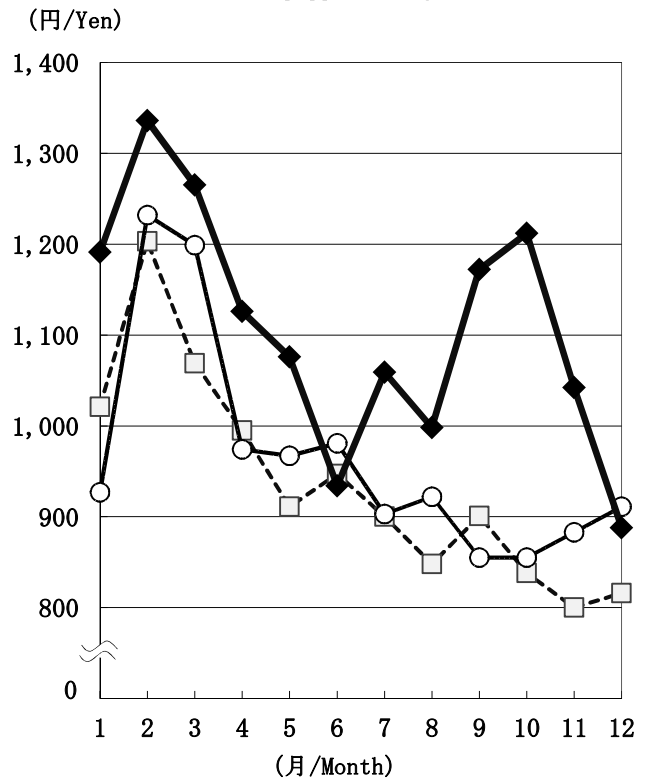
1435 なす
Eggplants (1kg)



1436 トマト
Tomatoes (1kg)

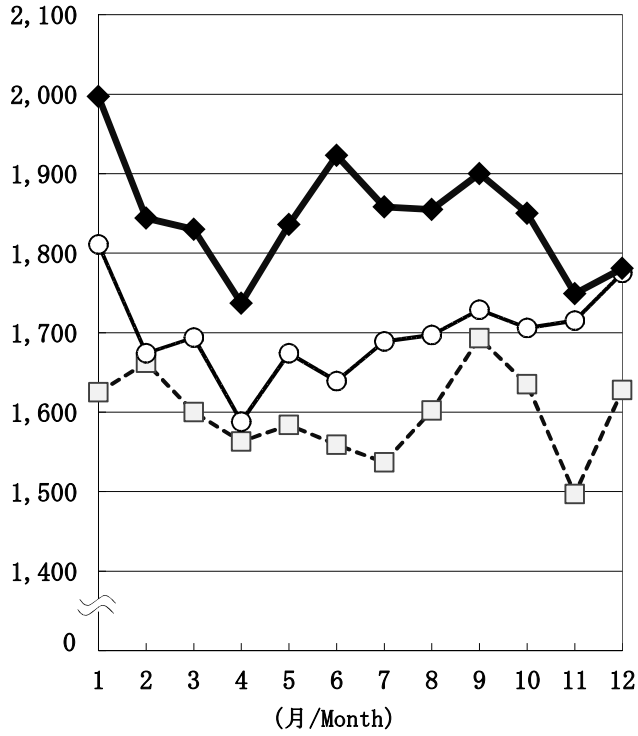


1437 ピーマン
Green peppers (1kg)

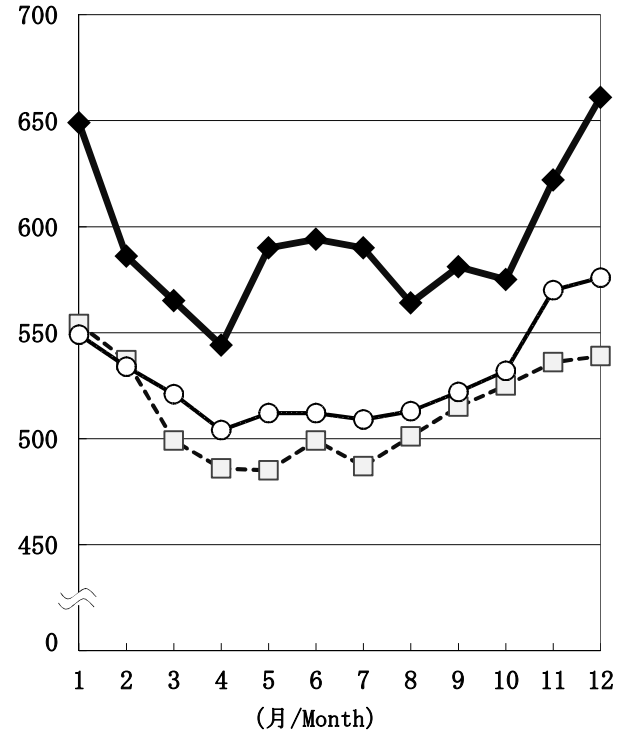




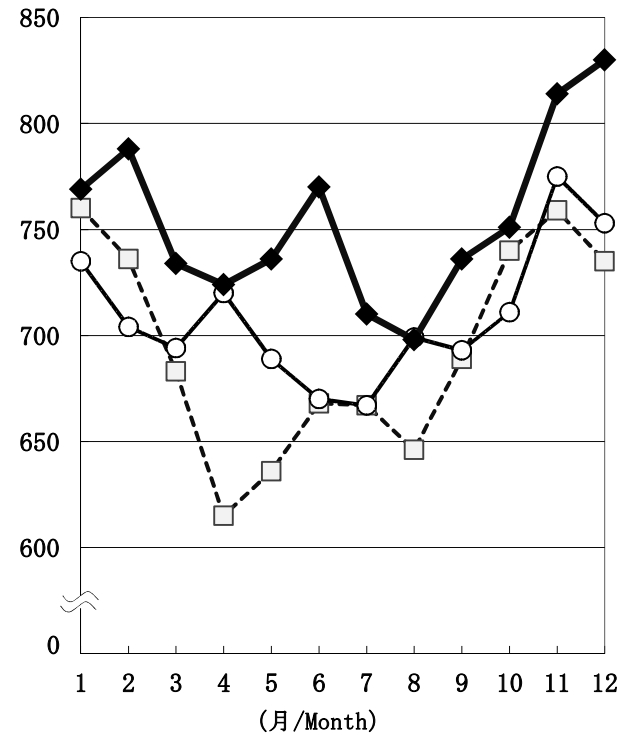
1438 生しいたけ
"Shiitake", Japanese mushrooms, fresh (1kg)
(円/Yen)



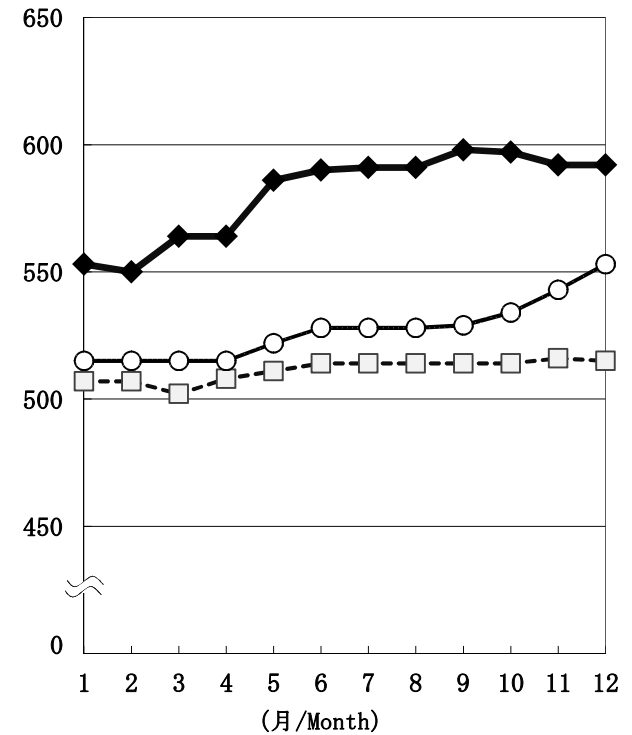
1442 えのきたけ
"Enokitake", mushrooms (1kg)
(円/Yen)



1443 しめじ
"Shimeji", mushrooms (1kg)
(円/Yen)

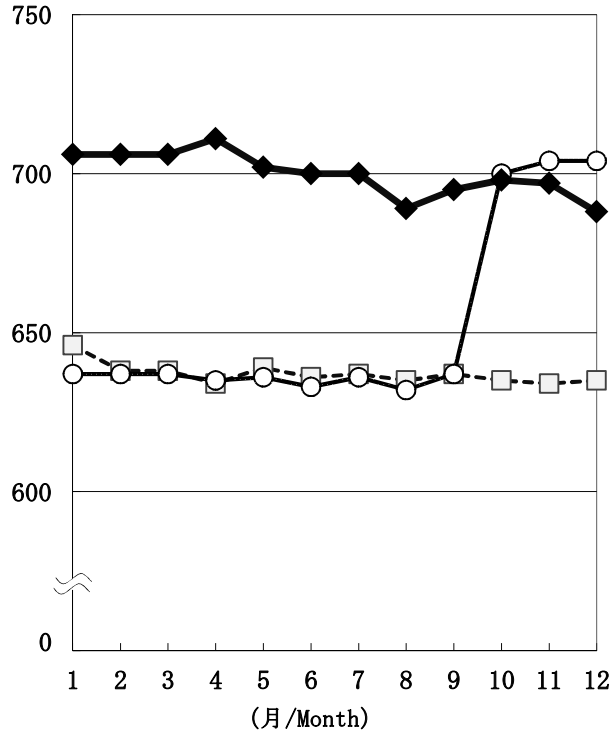


1444 カット野菜
Cut vegetables (1kg)
(円/Yen)

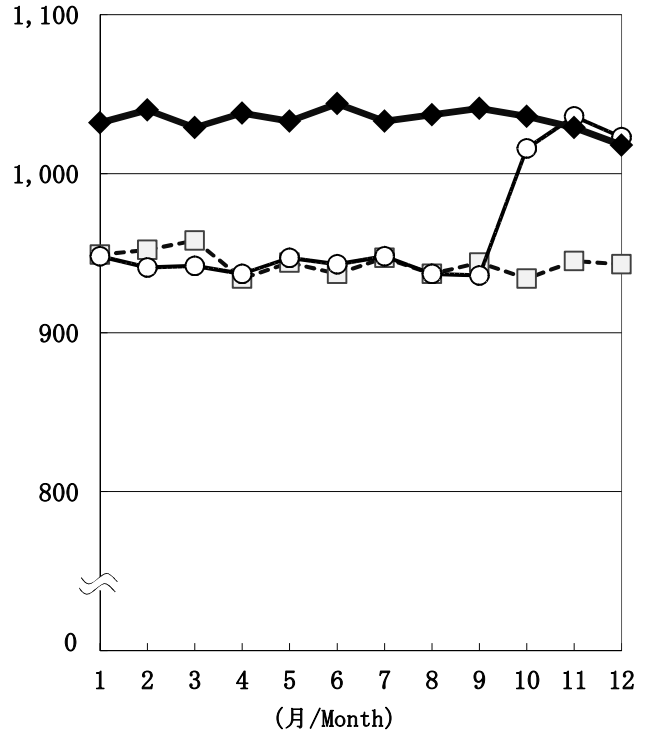




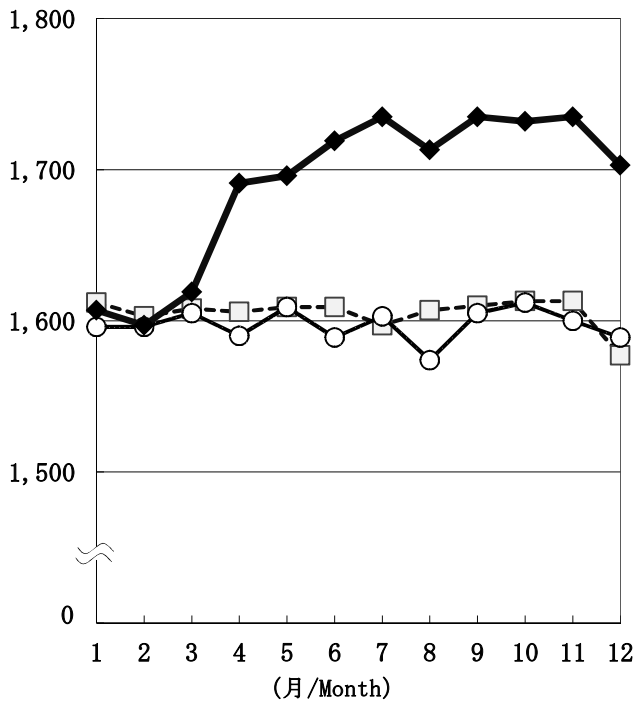
1952 ノンアルコールビール
Nonalcoholic beer (1パック [350mL×6]・pack)
(円/Yen)



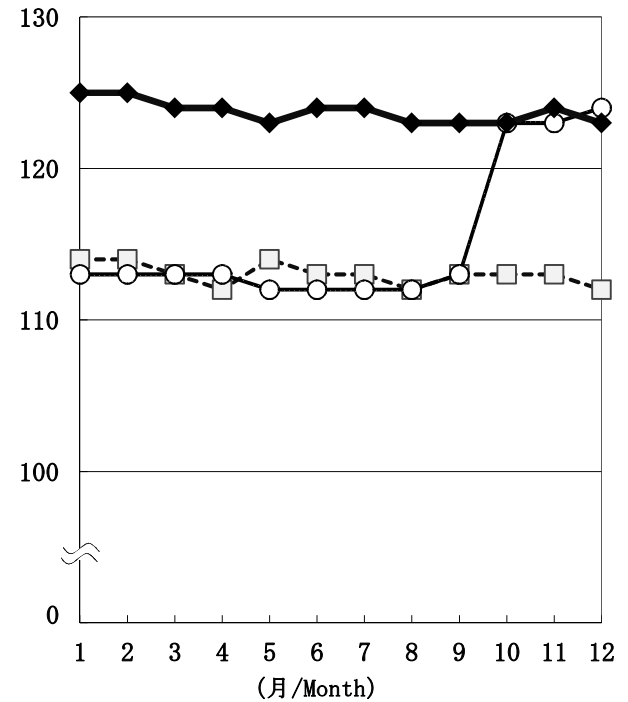
2003 清酒
"Sake" (1本 [2,000mL]・carton)
(円/Yen)

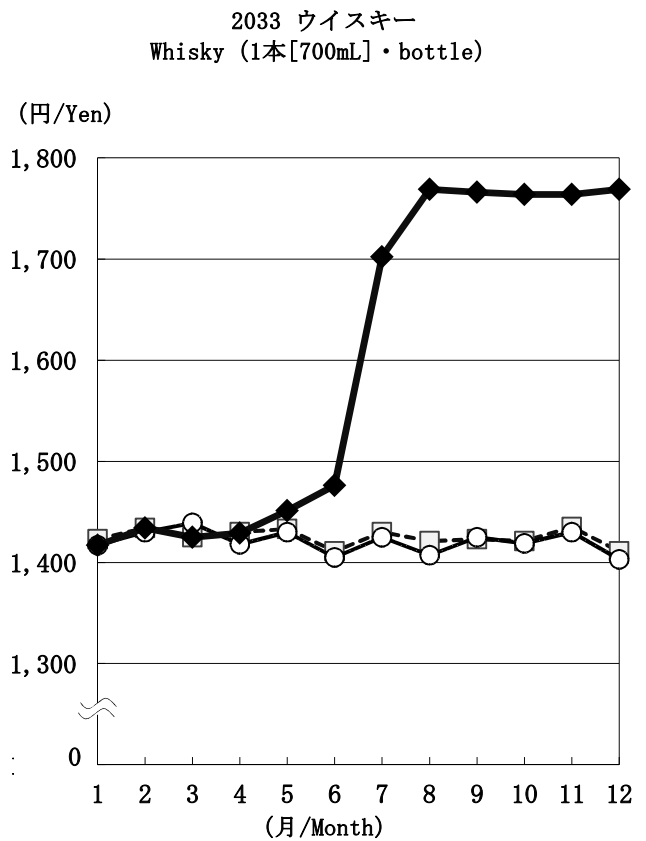
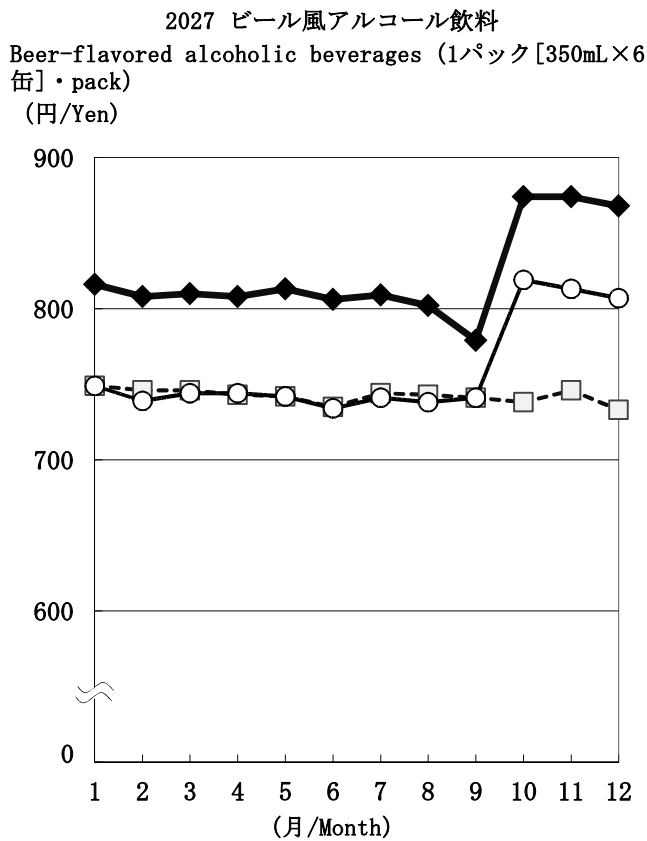
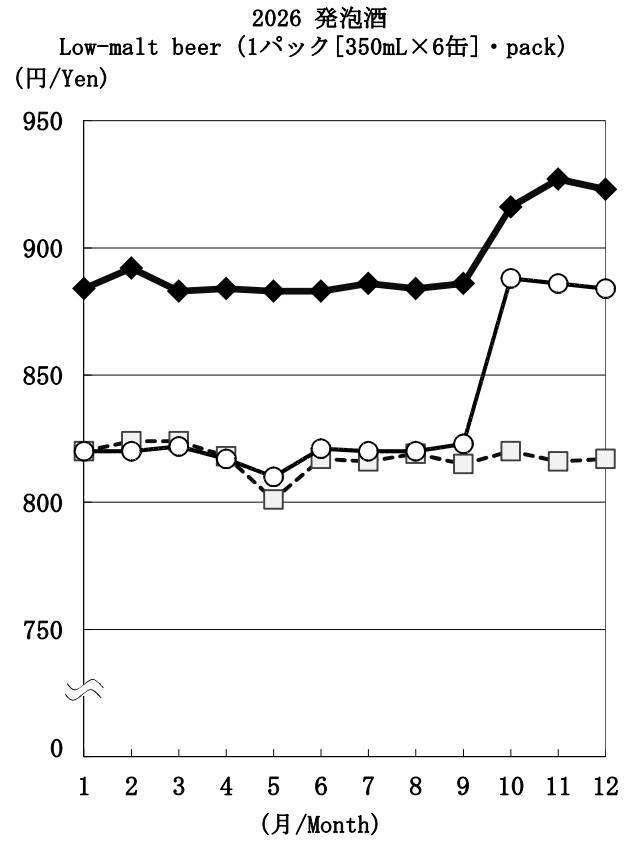
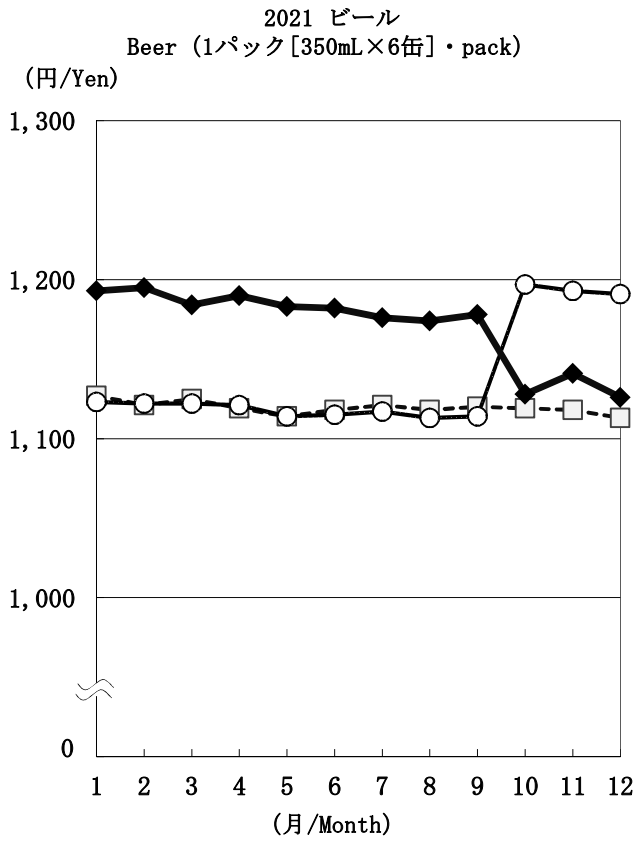


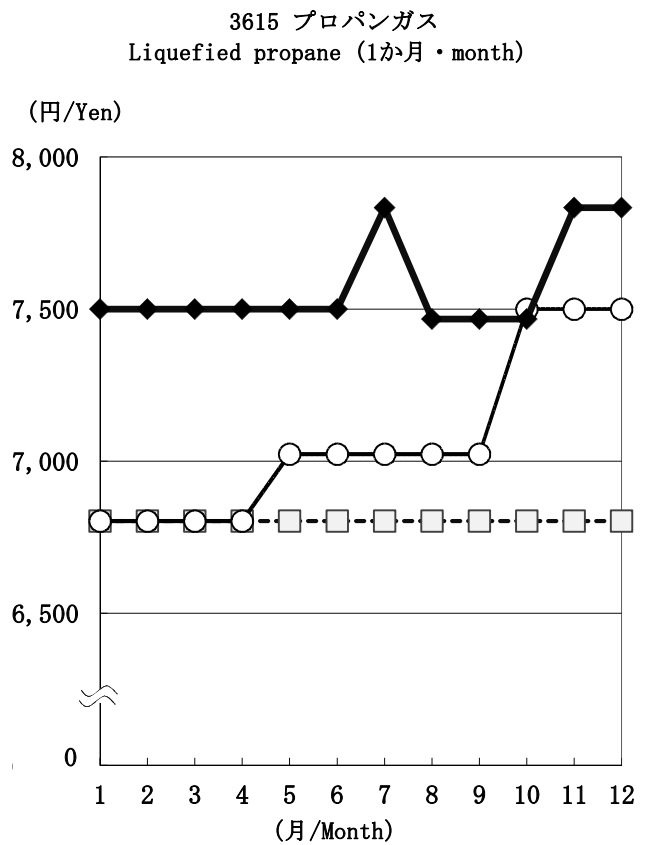
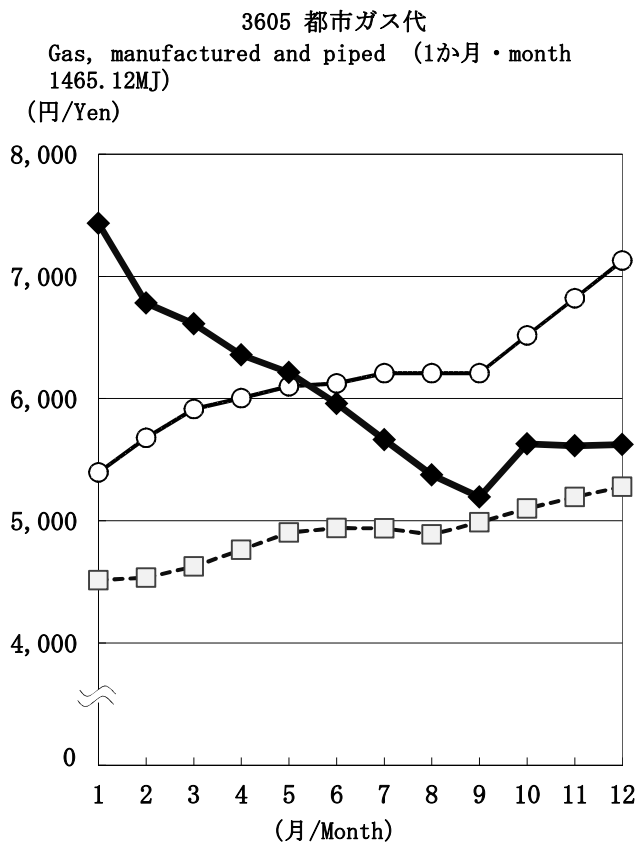
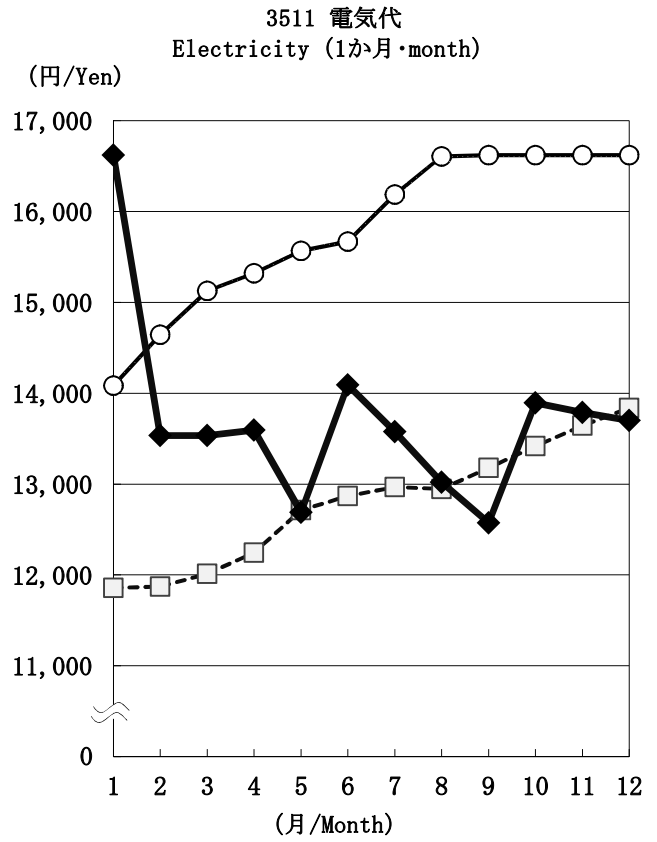
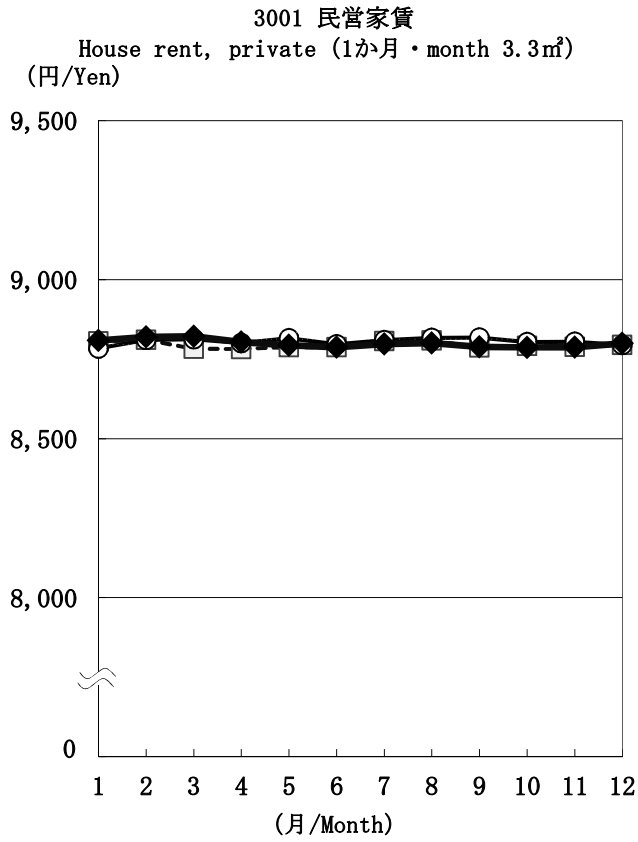
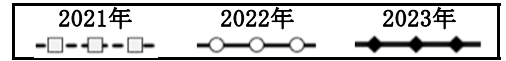
2011 焼酎
"Shochu", distilled spirits (1本 [1,800mL]・carton)
(円/Yen)

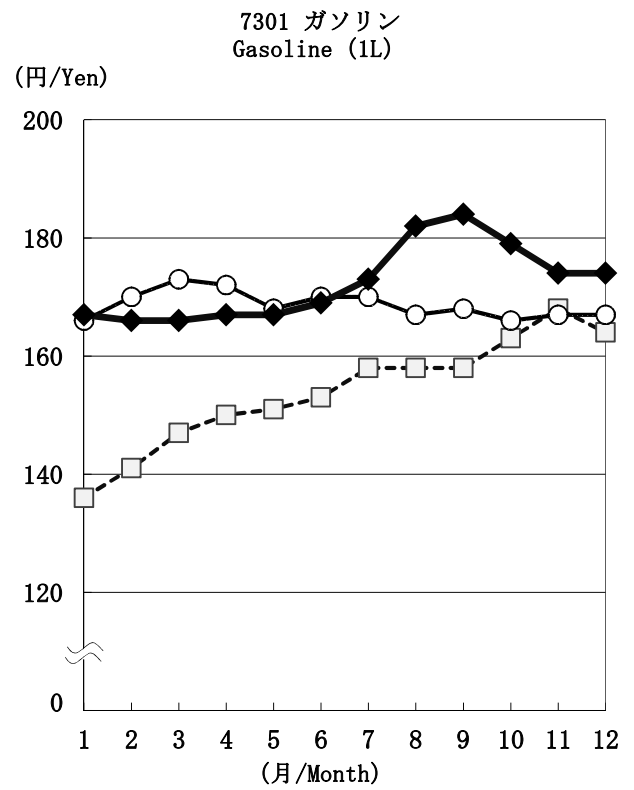
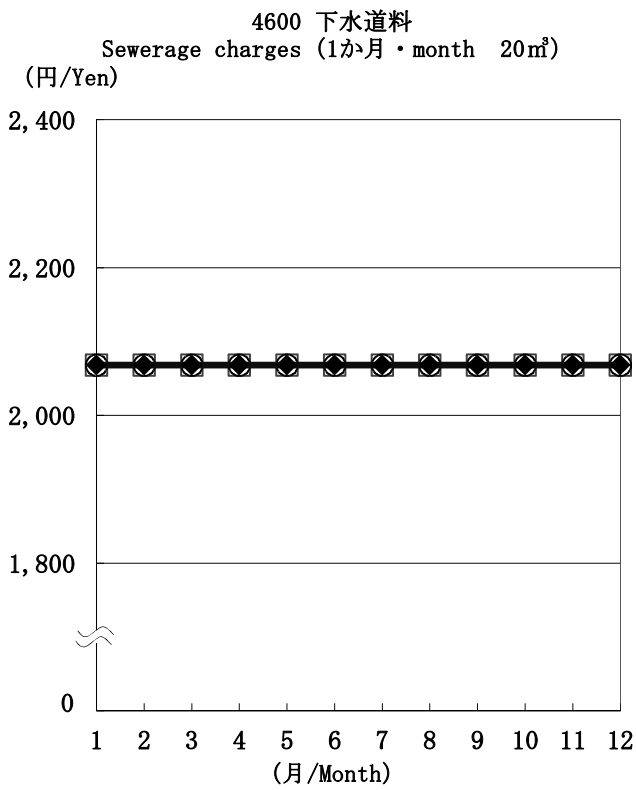
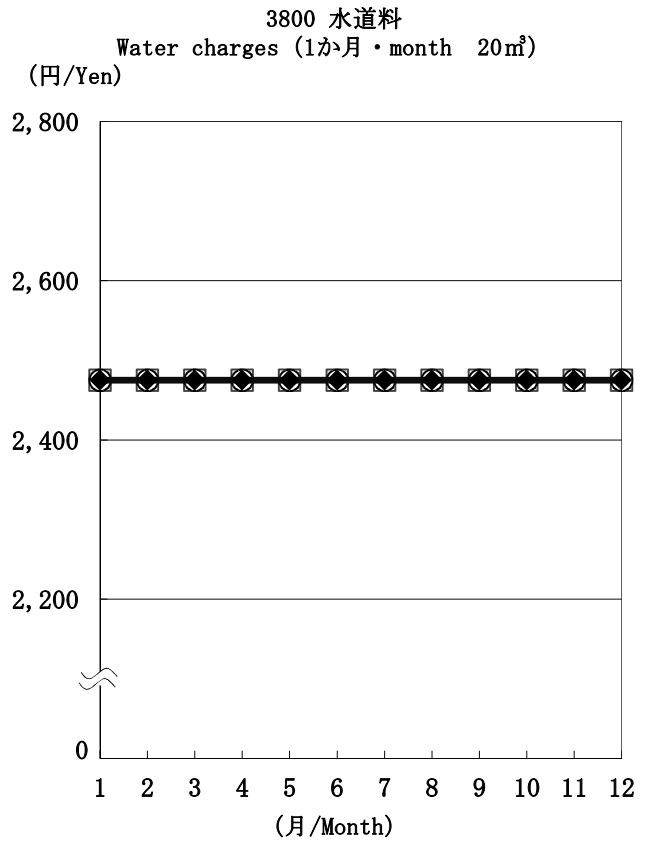
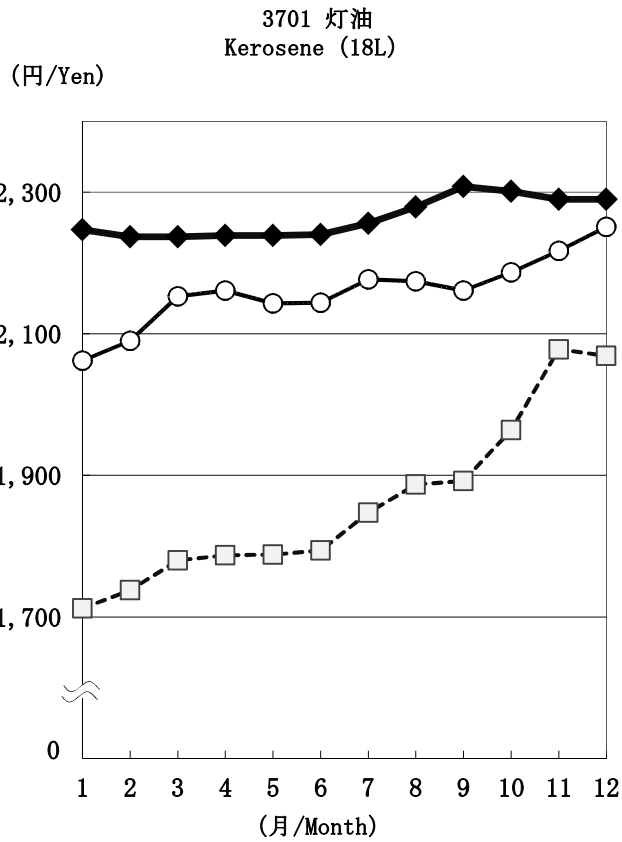
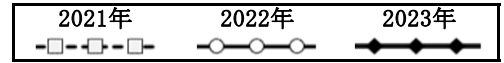


2012 チューハイ
"Chu-hi", liquor with soda and fruit (1缶 [350mL]・can)
(円/Yen)









【コラム1】鶏卵と関連製品の価格の動きについて

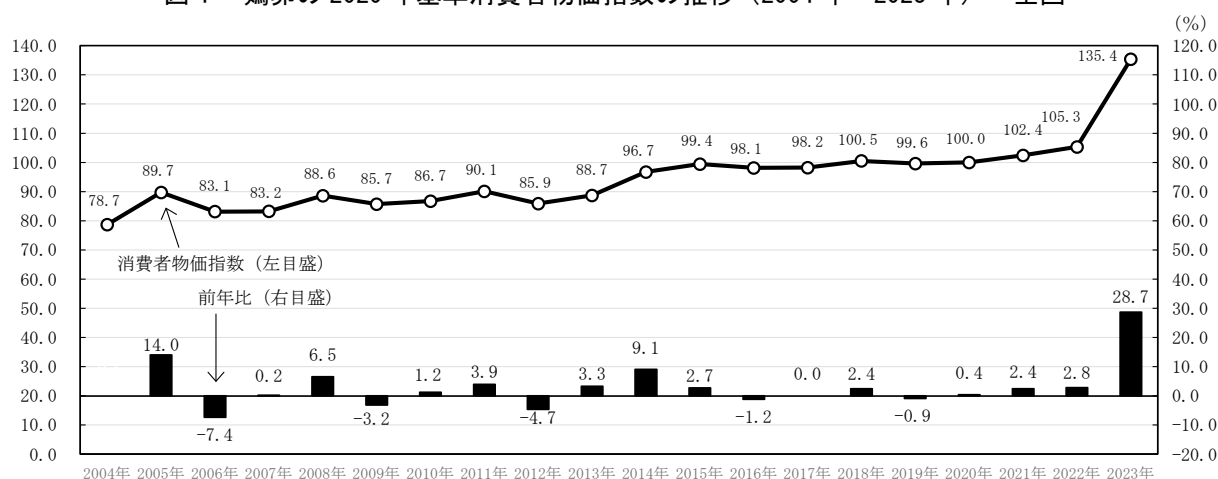
鶏卵は卵料理やスイーツに使われるなど、食卓に上がることが多い食品です。価格が大きく変動しないことから、「物価の優等生」などと呼ばれてきましたが、2023年には価格が高騰したことが話題になりました。

本コラムでは、価格が高騰した鶏卵を始め、鶏卵を使用した製品の価格の動きをみていきます。

まず、「物価の優等生」と呼ばれる鶏卵の変動の状況について、2004年から2023年までの20年間の消費者物価指数の推移からみてみます。2020年を100とした鶏卵の価格指数は、2005年に89.7（前年比14.0%）となり、その後は上昇と下落を繰り返しましたが2015年に99.4となつてからはそれまでと比べて変動幅が縮小し、2020年まで横ばい傾向が続いていました。このことから、この期間は鶏卵価格が安定していたことが分かります。しかし、その後、鶏卵の価格指数は前年と比べ2%以上の上昇が続き、2023年には135.4（前年比28.7%）と上昇幅が拡大しました。

（図1）

図1 鶏卵の2020年基準消費者物価指数の推移（2004年～2023年） - 全国



出典：総務省統計局「2020年基準消費者物価指数」（2004年～2023年）

鶏卵の価格が上昇した理由としては、国際情勢の変化や円安などにより、海外から輸入に多く頼ってきた飼料が高騰していること、電気代や燃料費の上昇などが考えられます。

さらに、2023年に鶏卵が高騰した理由としては、高病原性鳥インフルエンザの発生が挙げられます。農林水産省の資料によると、2022年10月下旬から2023年4月にかけて発生した高病原性鳥インフルエンザは、日本国内の採卵鶏（たまごを採るために飼育されるニワトリの雌）農場において61例を数え、約1,654万羽の採卵鶏が殺処分されました。これは国内全体の約12%に当たり、鶏卵の供給量は減少しました。

2021年から2023年までの月別鶏卵生産量をみると、2022年1月から10月までは前年と比べ増加していましたが、2022年11月以降は減少しています。2023年の鶏卵生産量は、前年と比べ15万8,952トン（-6.1%）の減少となりました。

（表1）

表 1 月別鶏卵生産量（2021 年～2023 年） - 全国

	実数（トン）			前年比（％）	
	2021年	2022年	2023年	2022年	2023年
年計	2,574,255	2,596,725	2,437,773	0.9	-6.1
1月	213,670	216,209	205,926	1.2	-4.8
2月	195,225	201,016	187,427	3.0	-6.8
3月	218,206	222,358	207,083	1.9	-6.9
4月	213,497	217,694	200,057	2.0	-8.1
5月	218,471	221,609	207,587	1.4	-6.3
6月	211,710	214,733	199,208	1.4	-7.2
7月	216,509	217,662	202,492	0.5	-7.0
8月	215,063	217,601	202,400	1.2	-7.0
9月	213,251	213,770	200,350	0.2	-6.3
10月	216,752	219,241	208,326	1.1	-5.0
11月	215,804	214,248	204,419	-0.7	-4.6
12月	226,097	220,584	212,498	-2.4	-3.7

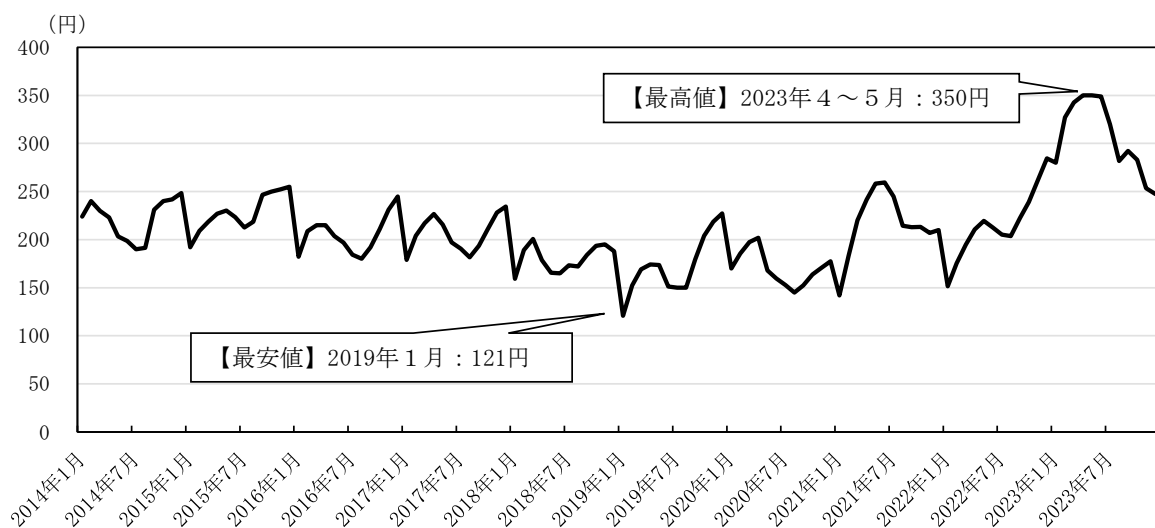
出典：農林水産省「令和 5 年鶏卵流通統計調査結果」から総務省統計局が作成

農場から出荷された鶏卵は「G Pセンター」という施設へ運ばれ、洗浄、乾燥、検査、計量及びパック詰めが行われます。その後、卸・小売業者を経て消費者の元へ届きます。

鶏卵卸大手による東京市場でのMサイズの鶏卵 1 kg 当たりの卸売価格について2014年 1 月から2023 年12月までの10年間の推移をみると、夏場に底を迎え、需要期の冬場に向けて上昇する傾向であり、安定的でしたが、高病原性鳥インフルエンザが発生した2022年後期から大幅な上昇傾向となり、2023年 4 月及び2023年 5 月は350円と最も高くなっています。その後、2023年の後半は下落傾向で推移しました。

（図 2）

図 2 鶏卵（M基準・1 kg）の卸売価格の推移（2014 年 1 月～2023 年 12 月） - 東京



出典：J A全農たまご株式会社 相場情報 <<https://www.jz-tamago.co.jp/business/souba/>>

日別の相場情報から総務省統計局が作成

次に、小売物価統計調査の結果から鶏卵と原材料に鶏卵を多く含むと考えられる製品（以下「鶏卵関連製品」という。）の価格の推移をみていきます。推移をみるのは、鶏卵が現行の基本銘柄に改正された2018年以降の価格です。

2018年以降の鶏卵関連製品の基本銘柄は下表のとおりです。

（表2）

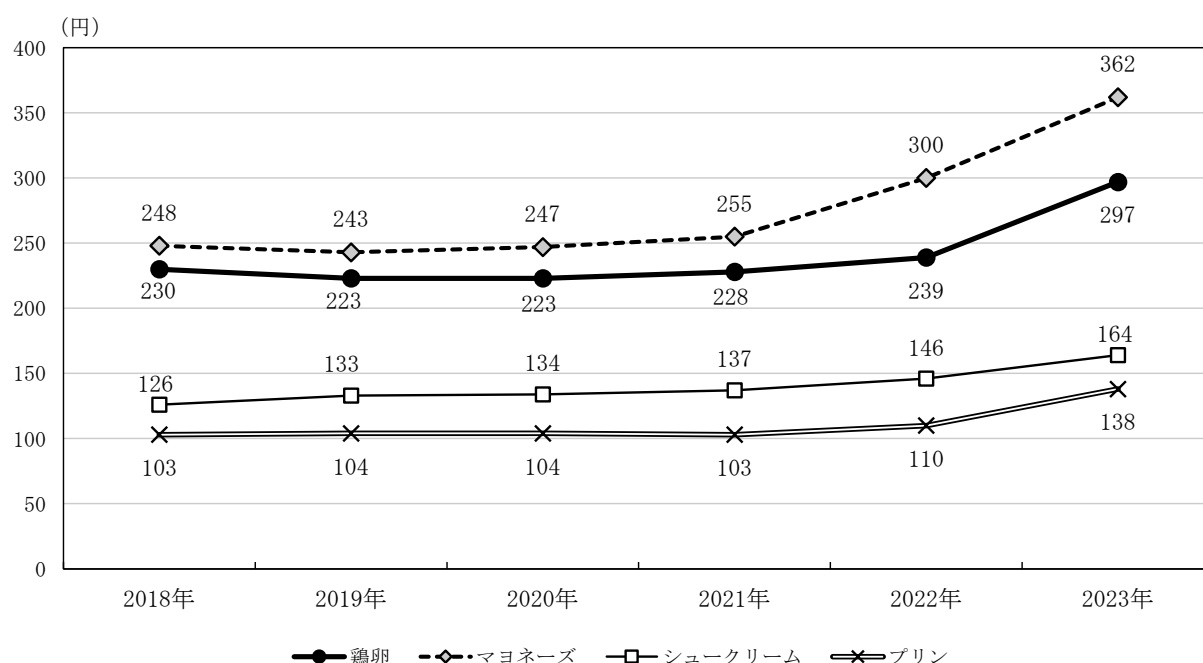
表2 鶏卵関連製品の調査品目・銘柄（2018年～2023年）

銘柄符号	品目	銘柄	単位
1341	鶏卵	白色卵，パック詰（10個入り），サイズ混合，〔卵重〕「MS52g～LL76g未満」，「MS52g～L70g未満」又は「M58g～L70g未満」	1パック
1643	マヨネーズ	ポリ容器入り（450g入り），「キューピーマヨネーズ」	1本
1713	シュークリーム	カスタードクリーム入り	100g
1714	プリン	チルドタイプ，カップ入り（140g入り），「森永の焼プリン」又は「新鮮卵のこんがり焼プリン」	1個

鶏卵関連製品について東京都区部の小売価格の推移をみると、いずれの品目も2022年及び2023年は上昇しています。

（図3-1）

図3-1 鶏卵関連製品の小売価格の推移（2018年～2023年） - 東京都区部



出典：総務省統計局「小売物価統計調査（動向編）」年次結果（2018年～2023年）

さらに、価格水準を合わせて推移を比較するため、2018年の価格を100とした各年の価格指数をみていきます。

鶏卵は、2019年から2021年までは2018年よりも価格水準は低く、2022年以降は高くなっています。特に、2023年の価格指数は129.1となり、2022年の103.9から大幅に上昇しました。

鶏卵を除く3品目のうち2023年の価格指数が最も高いのは「マヨネーズ」で、146.0となっています。「マヨネーズ」は、2019年及び2020年においては「シュークリーム」及び「プリン」よりも価格指数が低かったものの、2021年には「シュークリーム」に次いで高くなり、2022年には121.0と大幅に上昇して3品目の中で最も価格指数が高い品目となり、2023年には更に上昇しました。

2023年における鶏卵関連製品の価格指数を2018年と比べると、「マヨネーズ」は約5割と特に大きく上昇していますが、これ以外の品目も約3割と大きく上昇しています。2021年までと比較して2022年は上昇幅が大きくなり、2023年には更に大きく上昇したことは、4品目で共通した傾向です。

(図3-2、表3)

図3-2 鶏卵関連製品の価格指数の推移(2018年～2023年) - 東京都区部

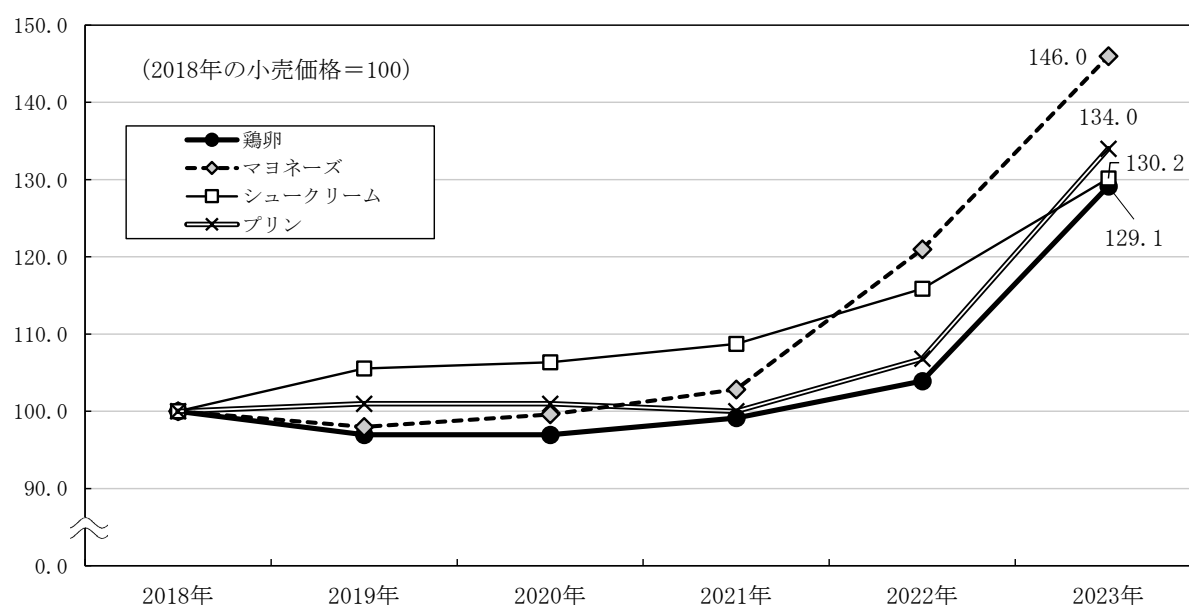


表3 鶏卵関連製品の価格指数の推移(2018年～2023年) - 東京都区部

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
鶏卵	100.0	97.0	97.0	99.1	103.9	129.1
マヨネーズ	100.0	98.0	99.6	102.8	121.0	146.0
シュークリーム	100.0	105.6	106.3	108.7	115.9	130.2
プリン	100.0	101.0	101.0	100.0	106.8	134.0

出典：総務省統計局「小売物価統計調査（動向編）」年次結果（2018年～2023年）を基に作成

次に、大きな変動があった2021年から2023年までについて、東京都区部の月別の小売価格の推移をみていきます。

「鶏卵」は2021年5月まで緩やかに上昇し、その後は横ばい傾向で推移しましたが、2022年9月に再び上昇の後、横ばい傾向となりました。しかし、2023年2月以降大幅な上昇が続き、2023年6月には311円と、この期間において最も高くなりました。このほか、「マヨネーズ」及び「プリン」は基本銘柄として指定している商品の価格改定により、階段状の推移がみられます。また、「シュークリーム」については緩やかに上昇しています。このように4品目とも2021年1月と比べて2023年12月の価格は上昇しており、その価格差は最も大きい「マヨネーズ」では136円、最も小さい「シュークリーム」では36円となっています。

(図4-1、表4)

図4-1 鶏卵関連製品の小売価格の推移(2021年1月～2023年12月) - 東京都区部

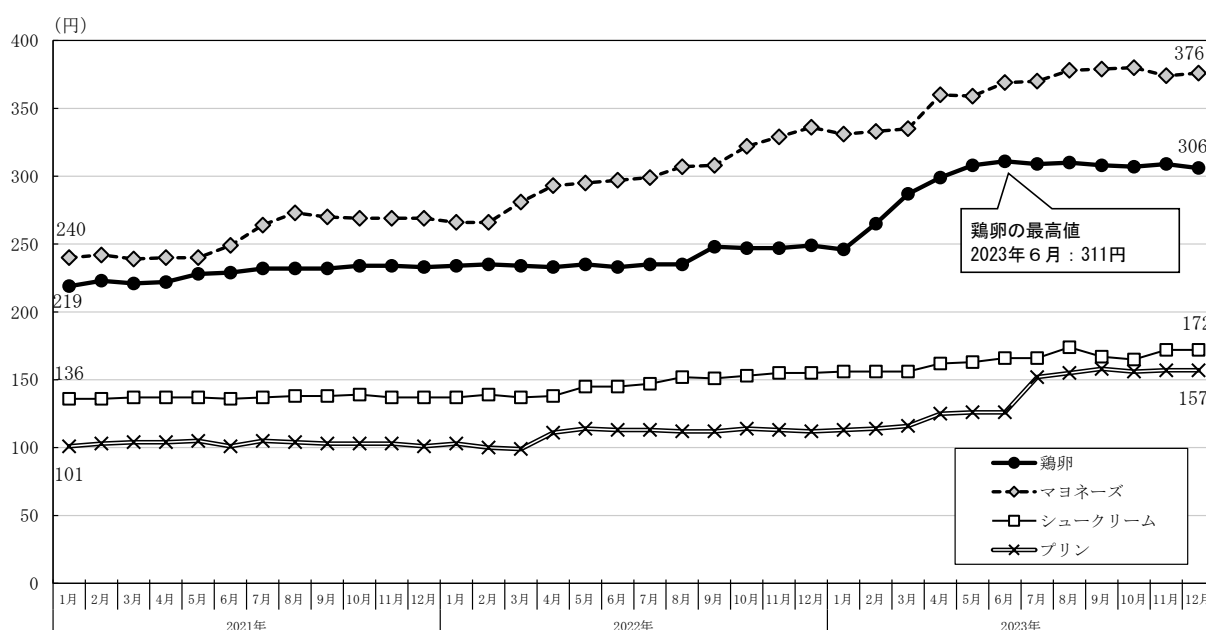


表4 鶏卵関連製品の小売価格の推移(2021年1月～2023年12月) - 東京都区部

	2021年				2022年				2023年			
	鶏卵	マヨネーズ	シュークリーム	プリン	鶏卵	マヨネーズ	シュークリーム	プリン	鶏卵	マヨネーズ	シュークリーム	プリン
1月	219	240	136	101	234	266	137	103	246	331	156	113
2月	223	242	136	103	235	266	139	100	265	333	156	114
3月	221	239	137	104	234	281	137	99	287	335	156	116
4月	222	240	137	104	233	293	138	111	299	360	162	125
5月	228	240	137	105	235	295	145	114	308	359	163	126
6月	229	249	136	101	233	297	145	113	311	369	166	126
7月	232	264	137	105	235	299	147	113	309	370	166	152
8月	232	273	138	104	235	307	152	112	310	378	174	155
9月	232	270	138	103	248	308	151	112	308	379	167	158
10月	234	269	139	103	247	322	153	114	307	380	165	156
11月	234	269	137	103	247	329	155	113	309	374	172	157
12月	233	269	137	101	249	336	155	112	306	376	172	157

出典：総務省統計局「小売物価統計調査(動向編)」月次結果(2021年1月～2023年12月)

さらに、2021年1月の価格を100とした各月の価格指数の推移をみてみます。

鶏卵は2023年2月以降に上昇が続き、2023年5月には140.6となり、2021年1月と比べ4割以上高くなっています。4割以上高いこの水準は2023年11月まで続き、2023年12月においても139.7と高い水準のままとりました。

「マヨネーズ」、「プリン」及び「シュークリーム」は、段階的に価格指数が上昇しています。特に、「プリン」は2023年7月に150.5（前月比20.6％）と大幅に上昇しています。

2023年12月時点の価格指数は、「マヨネーズ」が156.7、「プリン」が155.4と、2021年1月と比べて5割以上高くなっています。

（図4－2、表5）

図4－2 鶏卵関連製品の価格指数の推移（2021年1月～2023年12月） - 東京都区部

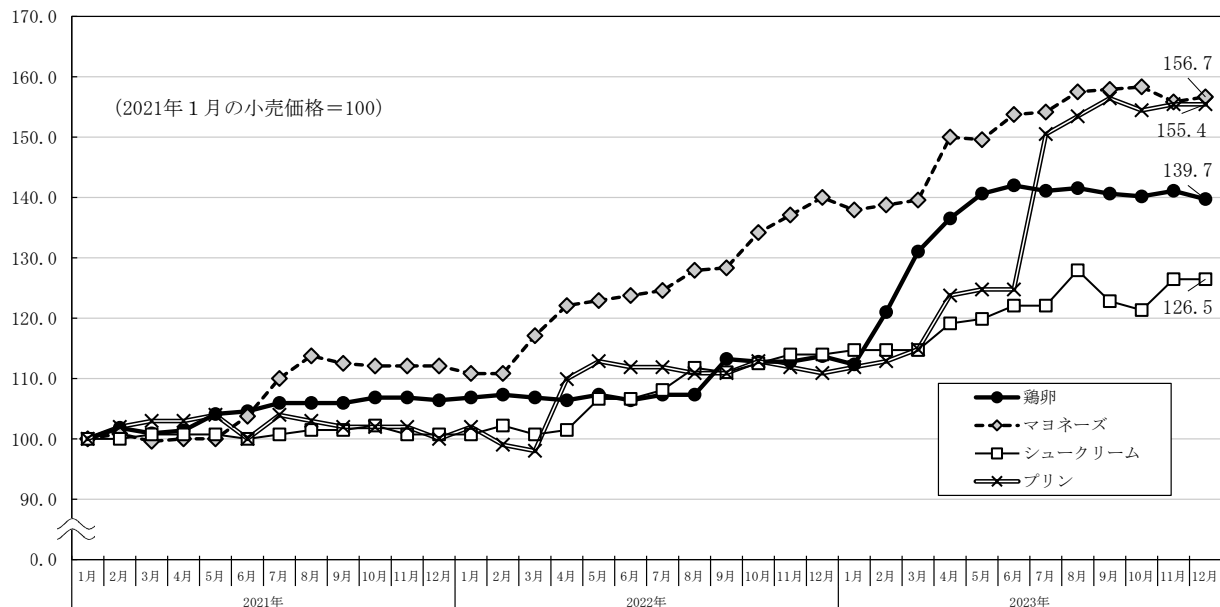


表5 鶏卵関連製品の価格指数の推移（2021年1月～2023年12月） - 東京都区部

	2021年				2022年				2023年			
	鶏卵	マヨネーズ	シュークリーム	プリン	鶏卵	マヨネーズ	シュークリーム	プリン	鶏卵	マヨネーズ	シュークリーム	プリン
1月	100.0	100.0	100.0	100.0	106.8	110.8	100.7	102.0	112.3	137.9	114.7	111.9
2月	101.8	100.8	100.0	102.0	107.3	110.8	102.2	99.0	121.0	138.8	114.7	112.9
3月	100.9	99.6	100.7	103.0	106.8	117.1	100.7	98.0	131.1	139.6	114.7	114.9
4月	101.4	100.0	100.7	103.0	106.4	122.1	101.5	109.9	136.5	150.0	119.1	123.8
5月	104.1	100.0	100.7	104.0	107.3	122.9	106.6	112.9	140.6	149.6	119.9	124.8
6月	104.6	103.8	100.0	100.0	106.4	123.8	106.6	111.9	142.0	153.8	122.1	124.8
7月	105.9	110.0	100.7	104.0	107.3	124.6	108.1	111.9	141.1	154.2	122.1	150.5
8月	105.9	113.8	101.5	103.0	107.3	127.9	111.8	110.9	141.6	157.5	127.9	153.5
9月	105.9	112.5	101.5	102.0	113.2	128.3	111.0	110.9	140.6	157.9	122.8	156.4
10月	106.8	112.1	102.2	102.0	112.8	134.2	112.5	112.9	140.2	158.3	121.3	154.5
11月	106.8	112.1	100.7	102.0	112.8	137.1	114.0	111.9	141.1	155.8	126.5	155.4
12月	106.4	112.1	100.7	100.0	113.7	140.0	114.0	110.9	139.7	156.7	126.5	155.4

（出典）総務省統計局「小売物価統計調査（動向編）」月次結果（2021年1月～2023年12月）を基に作成

本コラムでは、鶏卵と、鶏卵を使用した製品の価格の推移をみてきました。「物価の優等生」と呼ばれてきた鶏卵も、様々な要因による生産コストの上昇や高病原性鳥インフルエンザによる供給不足などの影響により価格が高騰し、鶏卵を原材料とする製品の価格にも波及していることがうかがえるのではないのでしょうか。

【参考資料】

- ・農林水産省「高病原性鳥インフルエンザの発生状況について」（令和5年6月）、
「食肉鶏卵をめぐる情勢」（令和6年6月）、「aff」（令和6年4月号）
- ・一般社団法人 日本養鶏協会「鶏卵の需給見通し」（令和6年3月）

【コラム2】切り花の価格について

切り花は、自宅に飾ってその美しさを楽しんだり、仏壇やお墓に供えたり、感謝の気持ちを込めて人に贈ったりするアイテムです。本コラムでは、私たちにとって身近な切り花の価格等についてみていきます。

小売物価統計調査では、購入頻度が高い切り花として、「カーネーション」、「きく」及び「バラ」を調べています。

(表1)

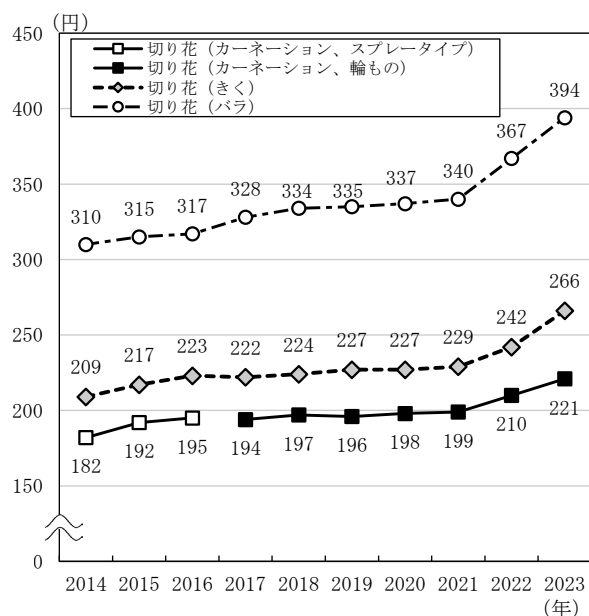
表1 切り花の調査銘柄 (2014年～2023年)

銘柄符号	品目	年次	銘柄	単位
9181	切り花	2017年～2023年	カーネーション, スタンダードタイプ (輪もの)	1本
		2014年～2016年	カーネーション (白を除く), スプレータイプ	
9182	切り花	2014年～2023年	きく, 輪もの (直径5～10cm)	1本
9183	切り花	2014年～2023年	バラ, 輪もの	1本

過去10年間の切り花の小売価格の推移をみると、「カーネーション」及び「きく」は2016年、「バラ」は2017年まで上昇した後、横ばいの傾向となっていました。しかし、2022年及び2023年には上昇幅が拡大しています。2014年の価格を100として指数化した価格指数をみると、2023年は2014年と比べて「カーネーション」は約2割、「きく」及び「バラ」は約3割高いことが分かります。

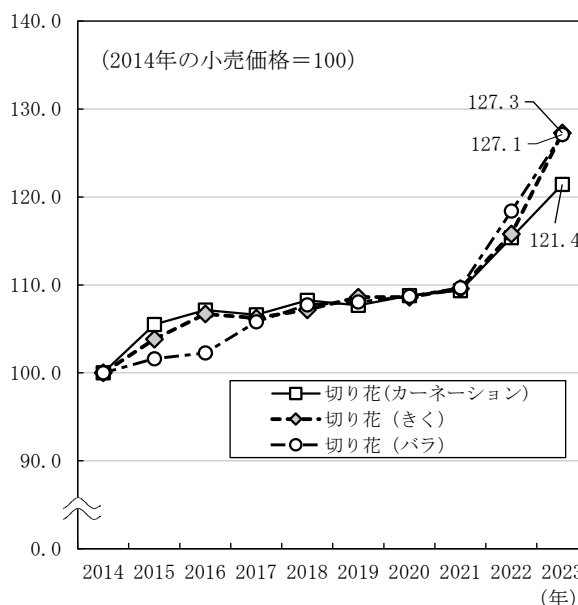
(図1、図2)

図1 切り花の小売価格の推移 (2014年～2023年) - 東京都区部



出典：総務省統計局「小売物価統計調査（動向編）」年次結果（2014年～2023年）

図2 切り花の価格指数の推移 (2014年～2023年) - 東京都区部



出典：総務省統計局「小売物価統計調査（動向編）」年次結果（2014年～2023年）を基に作成

※ カーネーションについては、2017年に銘柄改正しているが、便宜、2014年（旧銘柄）の価格を100として価格指数を作成

農林水産省の資料によると、母の日やお彼岸など需要が一時期に集中する「カーネーション」や「きく」の国内流通量に占める輸入品の割合は、次のとおりです。

(表2)

表2 切り花の品目別輸入割合及び輸入量(2022年)

品目	国内流通量 における輸 入品の割合	輸入量 (億本)	主な輸入国					
			1位	割合	2位	割合	3位	割合
カーネーション	66%	3.77	コロンビア	66%	中国	25%	エクアドル	7%
きく	21%	3.22	ベトナム	38%	マレーシア	38%	中国	22%
バラ	17%	0.38	ケニア	53%	エチオピア	17%	エクアドル	8%

出典：農林水産省「花きの現状について」(令和6年7月)

輸入割合が6割を超える「カーネーション」と国内産の割合の方が大きい「きく」及び「バラ」の価格指数について比較すると、「きく」及び「バラ」の方が、上昇幅が大きくなっています。国内産の切り花の価格上昇にはどのようなことが影響しているのでしょうか。

(図1、図2、表2)

農林水産省の資料によると、日本国内の花きの販売農家(経営耕作地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家)は減少傾向で推移していることに加え、生産者の年齢は60歳以上が72%と高齢化していることから、生産規模が縮小しています。また、近年は温度管理に必要な燃料のほか、各種資材や輸送費等の生産コストは大幅に上昇しています。こうした生産コストの負担増は直接的な価格への転嫁以外にも生産量の減少につながり、価格に影響するものと考えられます。さらに、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行したことによるイベント開催の回復に伴う需要増なども切り花の値上がりの一因です。

(表3)

表3 燃油価格の農業物価統計(令和2年基準) 価格指数の推移(2020年～2023年)

年次	指数	前年比(%)
2020年	100.0	-
2021年	120.1	20.1
2022年	141.4	17.7
2023年	142.9	1.1

出典：農林水産省「農業物価統計(令和2年基準)」農業生産資材のうち燃料用(A重油)の価格指数

また、国内産の「カーネーション」は、2023年4月上旬に生産地で気温が上昇して花の生育が計画より早まったことで出荷が前倒しになりました。需要のピークである母の日に合わせた供給が不足したことなどから、2023年の平均価格が上昇したと考えられます。輸入品の「カーネーション」については、生産地であるコロンビアの気温が年間を通じて一定であることから加温施設等が不要なため、これらにかかる設備費や光熱費等は不要ですが、気候変動や社会情勢、円安等の影響を受けています。

私たちの心を豊かにしてくれる切り花の価格は、様々な要因により変動しているようです。

【参考資料】

- ・農林水産省「花きの現状について」(令和6年7月)
- ・日本経済新聞「母の日のカーネーション5%高、国産の品薄など響く」(令和5年5月8日)、「フラワー市場から見る景気」(令和6年7月15日) など